



# CSR REPORT 2016



Innovation for the Earth





## オープンイノベーションで「資源循環インフラ」を構築する

リマテックホールディングス株式会社  
代表取締役

田中 靖訓

「パリ協定」は、日本の批准決定を待たずに、国数・排出量といった条件を満たし11月4日に発効されました。世界は、脱炭素化に向けて急速に舵を切り、これまでの常識からは考えられないほど高い目標を掲げ、経済社会の価値観の転換に挑戦することになります。

例えば、ノルウェーでは、2025年までにグリーン・エネルギーを利用した自動車にすべて切り替える方針について与野党間での会合もたれ、ガソリン車、ディーゼル車の販売を「完全に禁止」する準備を整えていることが伝えられているなど、世界各国の報道からは、今、まさにパラダイムシフトが起きていることを実感さ

せられます。

「環境分野における社会的課題に対応するイノベーションを創出すること」をミッションとし、“Innovation for the Earth”をコーポレートスローガンに掲げている当社グループでは、中長期経営ビジョンを「社会の資源循環インフラを担う企業グループへ」としており、これまでの経験で培った様々なアイデアを活かし、地域との共存共栄を図りながら、地域に信頼され、地域から必要不可欠とされる企業グループであるべく、イノベーション創造にチャレンジしております。

本レポートの特集①では、ISO14001改訂を受け、複数のマネジメントシステムを運用してきたグループ各社が、それらを統合し、効率的な新マネジメントシステムを構築しようとする取り組みを記載しています。当社グループの各事業や組織の目的及び戦略を明らかにした上で、それらに影響がある課題、ステークホルダーのニーズ、各種リスクに対する取り組み方法を明確にしておくなど、より効果的なマネジメントシステムの運用が実現できると自負致しております。また、自主基準を確立し自らの企業活動を厳しく監視し、企業活動を取り巻くあらゆる環境に対して関連する法規・法令を高い意識をもって遵守することが、全ての事業活動に優先することであると位置づけ、事業活動が地域社会に与える影響にも十分配慮し、社会の一員として環境保全及び安全衛生の確保に努めていく所存です。

特集②では、我々が目指す社会像をより迅速かつ効果的に実現するため、志を同じくする関西地区の企業と共にオープンイノベーションを実践している(株)レックスについて記載しています。そのミッションは、「信頼を軸に強固なアライアンス・ネットワークを構築し、資源循環インフラを創造すること」です。(株)レックスを含む、広義のリマテックグループが一丸となって、社会の資源循環インフラ構築に取り組んでおります。

また、近年は活動のステージを東南アジアを中心とした海外にも広げております。タイ王国最大の企業グループであるサイアムセメントグループ(以下 SCG)との合併会社を設立し、新興国で徐々に社会問題化している「ごみ問題」に対して、セメントキルンを利用した都市ごみの再資源化を実現する新たなソリューションの構築に取り組んでおり、1号プラントは2017年初頭には稼働予定です。また、2号プラントの計画も進んでおり、2017年度中の稼働を目指しています。マレーシアにおいては、主力産業のひとつであるパームオイルミルの環境課題の解決に取り組んでいます。パームオイルを製造する工程で発生する残渣は、塩素やカリウムといった燃料には適さない成分を多く含んでいるため、未利用のまま放置されているケースが多数あります。これらの未利用バイオマスの利用に関して、ローカルパートナーとともに脱塩・脱カリウムによるバイオマス燃料化やメタン発酵によるバイオガス化といった当社グループがこれまで培ってきた技術を応用し、燃料やエネルギーに変換する取り組みに挑戦しています。現在パイロットプラントを現地に建設中であり、年内にはテストを開始する予定です。

「社会の資源循環インフラ」を構築していくためには、当社グループだけでなく志を同じくする他の企業やNPOといった組織と連携し、オープンイノベーションを実践していく必要があります。今後も国内、海外を問わず、志をひとつにするパートナーと協働して「資源循環インフラ」の構築に向け努力するとともに、社員一人一人の成長と幸せを追求し、地域との共存共栄を図りながら、ステークホルダーの皆様へ信頼して頂けるグループを目指して邁進する所存です。

今後ともより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

### 編集方針

リマテックグループでは、当社グループのCSR活動について、すべてのステークホルダーの皆様にご報告することを目的に情報を開示しています。

このたび発行しました2016年度版CSRレポートは、今年度から導入を進めている新しいマネジメントシステムを特集として紹介。新シス

テムの目的やメリット、それをもとに設定した3か年計画を、グループ全体および各社ごとに掲載しております。またグループ全体としての取り組みのほか、各社ごとにページを設け、環境課題に対するそれぞれの取り組みを紹介しております。ご高覧のうえ、当社グループのCSR活動をご理解頂ければ幸いです。

- 報告対象組織／リマテックグループ
- 報告書発行日／2016年12月1日
- 情報開示体系／このレポートは、リマテックグループのCSR活動とその取り組みを報告しています。また、ホームページでは各社の事業紹介や日々の活動を更新していますので、ぜひご覧ください。  
<http://www.rematec.co.jp>

- 参考ガイドライン／GRI「サステナビリティレポートガイドライン」、環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、「地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン」

本報告書に関するお問い合わせ先  
リマテックホールディングス株式会社  
〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1 report@rematec.co.jp

### Contents

- トップメッセージ ..... 02
- これまでのあゆみ ..... 04
- 事業の紹介 ..... 06

#### 特集1

- 安全と環境への約束 ..... 08
- 新マネジメントシステム ..... 10

エコ・ファーストの約束／活動報告 ..... 14

#### 特集2

オープンイノベーション&海外事業 16

#### リマテックグループ企業情報

- オールリマテック ..... 18
- リマテック株式会社 ..... 20
- リマテック九州株式会社 ..... 22
- リマテック東北株式会社 ..... 24
- リマテックR&D株式会社 ..... 26
- RTT株式会社 ..... 28
- REMATEC & KSN THAILAND 30
- 株式会社レックス ..... 32

#### DATA

- 環境パフォーマンスデータ ..... 34
- 資格取得情報 ..... 35
- 第三者意見 ..... 36
- 企業情報 ..... 37

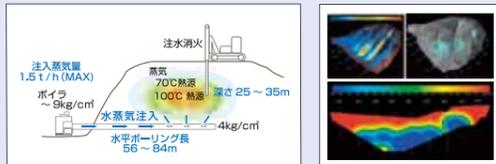
私たちリマテックグループは、創業以来、環境分野における様々な社会的課題の解決に取り組んでまいりました。これまでの経験とノウハウ、そして「企画力」「技術力」「現場力」という3つのチカラを最大限に発揮し、これからイノベーションの創出に挑戦します。

## REMATEC GROUP History

- 1974年 ◆近畿環境興産株式会社設立  
海洋汚染の主原因である廃油・廃液を処理するべく「近畿環境興産株式会社(のちのリマテック株式会社)」を設立。
- 1983年 ◆RF事業がスタート  
◆大阪工場RFプラント建設
- 1985年 ◆北九州営業所開設・タンククリーニング事業開始
- 1988年 ◆九州工場RFプラント建設
- 1992年 ◆関西国際空港建設工事に伴う廃棄物処理管理業務
- 1993年 ◆大阪工場をリプレース  
◆中華民国(台湾)へ廃棄物処理再生技術(RF燃料製造)を技術移転
- 1995年 ◆阪神淡路大震災の震災廃棄物処理管理業務  
◆大分県東国東郡姫島村の海難事故で漂着した燃料油の回収・処理業務  
◆韓国・ウルサンへ廃棄物処理再生技術(RF燃料製造)を技術移転
- 1997年 ◆福井県沖ロシア船籍ナホトカ号の海難事故による排出油防除業務  
回収された油(海水、油付着ゴミ、油濁砂を含む)5.9万tの内、1万t(ドラム缶にして5万本)の処理を請け負い、自社工場及び協力会社にて処理を実施。
- 1999年 ◆徳山沖タンカー反転事故による燃料油回収・処理業務
- 2000年 ◆廃棄物再資源化プロジェクト  
◆和歌山県橋本市ダイオキシン汚染地の不法投棄廃棄物撤去に係るコンサルティング(2000年~2004年度)
- 2001年 ◆亜臨界水技術の共同研究開始
- 2002年 ◆脱塩亜臨界水処理ベンチプラント建設  
◆食品亜臨界水処理ベンチプラント建設  
◆長崎県平戸沖ケミカルタンカー事故による燃料油回収・処理業務  
◆鹿児島県志布志沖飼料運搬事故による燃料油回収・処理及び海岸清掃業務  
台風災害により船が座礁。事故船のタンク内に残った燃料油約600tのほか、積荷の一部、オイル吸着材などの回収・処理を実施。
- ◆東京都大島町自動車運搬船事故による燃料油回収及び油防除業務



- 2004年 ◆廃棄物再資源化亜臨界水処理パイロットプラント建設  
◆ダメージ・カーゴの海難事故による廃棄物処分をせざるをえなくなった貨物の処理業務  
◆愛媛県愛南町沖での韓国船座礁事故による廃棄物処理業務  
◆愛媛県三崎町沖での座礁事故による廃棄物処理業務  
◆福岡県志賀島沖での中国籍の貨物船座礁事故による廃棄物処理業務  
◆富山県富山湾での座礁事故による燃料油回収・処理業務  
◆岩手青森県境不法投棄現場原状回復事業  
岩手青森県境で当時日本最大規模の不法投棄が発見される。原状回復として、計画の立案、現地設置施設的设计などのコンサルティング業を実施。
- 2005年 ◆山口県柳井港沖、M.S"ASIA CONCERTO"座礁事故による廃棄物処理
- 2006年 ◆世界初の商用亜臨界水プラント建設  
◆長崎県福江島、Grand Lucky座礁事故による廃棄物処理業務  
◆岡山県玉野市宇野湾沖での小型重油タンカーと貨物船衝突事故による燃料油回収・処理業務  
◆愛媛県松山市松山湾沖での燃料油回収・処理業務
- 2007年 ◆北九州市でのPCB汚染土壌処理施設運営管理業務
- 2008年 ◆グリーンフロント堺廃棄物処理総合管理業務  
◆岩手県でのBOFs(Biomass and Oily sludge Fuel)製造プラント設計・施工・運転支援
- 2009年 ◆都市型メタン発酵システム向け、亜臨界水利用撈面式可溶化装置開発  
◆処理困難物の再資源化事例(NaKプロジェクト)  
原子炉の冷却剤として利用するために、金属ナトリウムカリウム合金(NaK)の研究を行っていた施設から出た処理困難なNaKの廃棄物を処理する為、専門家や有識者の指導のもと、化学物質による環境汚染を防止し、安全に再資源化処理を実施。
- ◆岐阜県北部地区産業廃棄物不法投棄事案特定支障撤去等事業工事  
不法投棄産業廃棄物を処理するにあたり、不法投棄廃棄物が発熱していることが判明。燃焼箇所を消化する注水消化の補助工法を提案し採用され原状回復を実施。
- 2010年 ◆関東・九州でのPCB汚染土壌の浄化施設運営管理業務  
◆三重県御浜町沖合での「ありあげ」船座礁事故による燃料油回収・処理業務  
◆リマテック株式会社に社名変更  
◆下水汚泥の亜臨界水処理/メタン発酵システムの技術開発  
◆大分県津久見湾内での海難事故による燃料油回収・処理業務



- 2011年 ◆東日本大震災復興プロジェクト(岩手県)  
海水をかぶったがれき(災害廃棄物)を処理するための除塩プラント、仮置場災害廃棄物を選別する二次選別プラント、津波堆積物を処理する分級プラントの設計・施工・支援を行う。また、除塩事業による災害廃棄物処理(約93.5万t)、二次選別作業における災害廃棄物処理(大船渡市約84万t、陸前高田市約119万t)を実施。
- ◆富山県金沢港での貨物船座礁事故による燃料油・廃棄物の回収処理のコンサルティング業務  
中国・大連から鋼材やパイプなど約3千tを積んだパナマ船籍の貨物船が座礁。船内に残った燃料油約400kℓを回収し処理を実施。
- 2012年 ◆滋賀県大津市でのドラム缶不法投棄原状回復事業  
ドラム缶約450本におよぶ不法投棄の支障除去業務及び再生燃料化・焼却などの処理を実施。
- ◆海外現地法人設立(タイ王国)  
技術提携先の関西再資源ネットワークとの合弁会社「REMATEC&KSN THAILAND」(以下FRKT)を設立。
- ◆下水汚泥バイオガス化実証試験施設を整備し、受入試験を開始
- 2014年 ◆広島災害復興プロジェクト  
広島県広島市で発生した、豪雨土石流による災害廃棄物の適正処理を実施。  
◆蓄電池材料開発事業  
◆神奈川県三浦市沖の浦賀水道での貨物船沈没事故による燃料油・廃棄物の回収・処理・コンサルティング業務  
◆太陽光発電事業開始  
◆持株会社制に移行「リマテックグループ」へ
- 2015年 ◆SCGとRKTとの間で合弁会社Green Conservation Solutions(GCS)を設立  
増大する廃棄物問題に直面するタイ王国で、ノウハウや経験を活かすべく、現地企業との連携で合弁会社を設立。エネルギー回収や再資源化の実現に向け、廃棄物処理フローの提案などを実施。
- ◆バイオガス発電プラント「MFパワー1号」運転開始  
大阪府では初めてとなる、固定価格買取制度(FIT)適用のバイオガス発電施設として、発電事業をスタート。



### 環境課題における社会のうごき

- 1960年 ◆高度経済成長期
- 1967年 ◆公害対策基本法施行
- 1970年 ◆廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)制定
- 1971年 ◆環境庁発足
- 1974年 ◆海洋汚染により漁業への風評被害  
東京湾の魚介類のPCB汚染が大々的に報道され「魚を食べると危ない」という風評が広がる。大阪湾の水産物もそのあおりを受け、深刻な販売不振に。
- 1979年 ◆エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)制定/施行
- 1988年 ◆オゾン層保護のためのウィーン条約が発効され、日本も加入
- 1991年 ◆廃棄物処理法改訂  
特別管理産業廃棄物を対象としたマニフェスト制度の導入、廃棄物処理施設についての規制強化、廃棄物の不法投棄。
- 1992年 ◆地球サミット開催(リオデジャネイロ)  
リオ宣言・アジェンダ21・生物多様性条約・気候変動枠組条約採択。
- 1993年 ◆阪神淡路大震災発生  
◆環境基本法施行  
◆環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」が定められる  
◆「エネルギー等の使用の合理化及び再生資源の利用に関する臨時措置法(省エネルギーサイクル支援法)」を施行
- 1996年 ◆海洋投棄を原則禁止するロンドン条約96年議定書採択
- 1997年 ◆COP3地球温暖化防止京都会議開催  
◆廃棄物処理法改訂(マニフェスト制度の強化等)
- 1998年 ◆地球温暖化対策推進法制定
- 1999年 ◆省エネ法改正 ◆地球温暖化対策促進法施行  
◆ダイオキシン類対策特別処置法制定
- 2000年 ◆循環型社会形成推進基本法施行  
◆廃棄物処理法改訂(排出者責任の強化等)
- 2001年 ◆化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)制定  
◆グリーン購入法施行 ◆環境省が発足  
◆資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法(改正リサイクル法))が施行
- 2002年 ◆環境開発サミット開催(ヨハネスブルグ)  
◆省エネ法の一部改正法(2002年省エネルギー法)制定
- 2005年 ◆京都議定書発効
- 2006年 ◆海洋投棄を原則禁止するロンドン条約96年議定書発効
- 2008年 ◆生物多様性基本法施行
- 2009年 ◆エコポイント制度開始  
◆鳩山首相が国連で温室効果ガスの90年比25%削減目標を表明
- 2011年 ◆東日本大震災発生
- 2012年 ◆再生可能エネルギーの固定価格買取制度開始
- 2015年 ◆COP21開催。パリ協定が締結  
◆ISO9001・ISO14001の規格改訂
- 2016年 ◆パリ協定発効

## 「環境課題の解決」は、2軸の事業ドメインから

リマテックグループは「資源リサイクル事業」「再生可能エネルギー事業」の2つの事業を軸に、長年の経験で培った「企画力」「技術力」「現場力」を活かしながら、国内外における「環境課題の解決」に取り組んでいます。



### 資源リサイクル事業



#### RF事業(化石燃料代替品技術)

1960年代頃から社会問題化した海洋汚染。その主原因である廃油や廃液を適切に、環境に負担をかけずに処理したい。そんな思いから開発された「RF」は、可逆的チキソトロピー性を有するセメント焼成用補助燃料組成物(特許第3039644号)を、Reclaiming Fuel(廃棄物を利用した再生燃料)と称したもの。独自のミキシング技術で混ぜ合わせることによって、二次公害の発生を伴わずに、受け入れた産業廃棄物を燃料に生まれ変わらせることでCO<sub>2</sub>削減など環境負荷低減に貢献し、近年はアジアへも技術支援をしています。

#### RF製造フロー

- 石油精製会社
  - 半導体産業
  - 鉄鋼機械産業
  - 自動車産業
- (廃油・廃液・汚泥等)  
原料混合



#### ネットワーク・物流事業

廃棄物を再資源化する「静脈産業」と、原料・製品・エネルギーを供給する「動脈産業」との間をつなぐ、ネットワーク物流事業。危険物対応車両を中心に、お客様のニーズに合わせた様々な車両を取り揃えるほか、静脈・動脈相互の技術やノウハウを一体化し、収集運搬から再資源化、有

価物化等を担う「ワンストップサービス」を提供。廃棄物の効率的な資源循環の推進と発生量の削減、物流の効率化による低炭素化の促進にも貢献。さらにはお客様の処理コスト削減にも貢献します。

#### 環境修復事業

不法投棄された産業廃棄物による土壌汚染や、海難事故による原油流出、そして自然災害で発生した大量のがれき。これらを速やかに、適切に処理することで、地域住民の安心・安全な生活を取り戻したい。リマテックグループでは、これ

らの課題を解決するため、廃棄物運搬から分析・高精度選別・再資源化までの一貫した処理スキームの構築や、流出した油の回収処理を提案・施工いたします。グループの総合力で「暮らしと環境」を守る原状回復・修復事業を行っています。

#### 事業実績



#### メンテナンス事業

20数年間の各種設備メンテナンス等の実績で培ったノウハウを活かし、お客様の多様なニーズに沿えるメンテナンス方法と安全対策をご提案させて頂き、施工します。また、

大型タンク内清掃や各種設備清掃時に発生する洗浄水等の廃棄物は、その時の条件に応じたより良いリサイクル方法や処理方法をご提案する一元管理サービスも行っております。

#### 施工事例

- ケミカルタンク清掃
- 原油・粗軽油・タール・重油タンク清掃
- 超高压洗浄工事
- 海上災害復旧工事・廃棄物コンサル業
- アスベスト除去工事
- 配管ビッグ洗浄工事
- 化学プラントの触媒抜き取り・充填工事
- 超微粉体物の抜き取り工事

### 再生可能エネルギー事業



#### バイオガス発電事業

バイオガス発電とは、有機性の廃棄物(畜産糞尿、食品残渣、下水汚泥、資源作物等)から微生物の反応により生成したバイオガス(メタンガスと二酸化炭素の混合ガス)を使って発電するシステム。発電時に新たなCO<sub>2</sub>を排出しない、含水率の高い有機物からでも効率的にエネルギーを生成できる、処理後の残渣(残りかす)は液体肥料として利用できるなど、様々なメリットがあります。その結果、バイオガス事業はエネルギーの地域分散だけでなく、触媒として地域内の連携を生み出し地産地消と地方創生に貢献します。

#### 太陽光発電事業

太陽光発電とは、「太陽電池」と呼ばれる装置を使用し、太陽光を直接電気に変換する発電方式です。自然エネルギーである太陽光を活用することで、火力発電所から排出されるCO<sub>2</sub>排出量と化石燃料使用量の削減につながります。当社グループでは、全国3カ所で太陽光事業を実施しています。[鹿児島発電所(鹿児島県枕崎市/定格出力1,990kW)・岡山発電所(岡山県笠岡市/定格出力1,990kW)・熊本発電所(熊本県山鹿市/定格出力490kW)] 「エネルギー問題」と「地球環境問題」、この2つの問題を解決するために、地球環境への負荷が少ないエネルギーに対する期待が高まっています。これまでに培った発電実績データや効率的・安定的な発電に関する知見を十分に活用して、自然環境にやさしく、より安全に電気を生み出す「再生可能エネルギー」の安定稼働に努め、企業の社会的責任としての環境負荷低減などを通じて社会に貢献します。



※太陽光発電のCO<sub>2</sub>削減量については、太陽光発電協会「表示ガイドライン(平成27年度)」を参考に算定



## 新システムの導入で、リマテックグループはより確実・安全にミッションを実現します

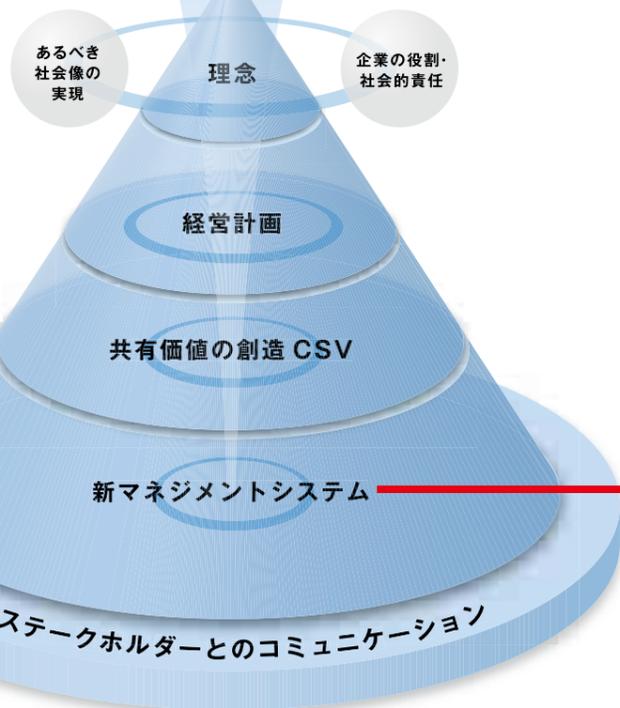
### グループ経営理念

技術 (Technology) をコアに、地球資源である物質 (Material) を無駄なく効率よく循環 (Recycling) させることによって、持続可能な社会の構築に貢献できるグループを目指す。

コーポレートスローガンおよびCSRコンセプト

## Innovation for the Earth

リマテックグループのミッション  
環境分野における社会的課題に対応するイノベーションを創出すること



### あるべき社会像の実現

- ◎すべての人が安全に安心して暮らせる社会
- ◎「環境」と「経済」が共存した持続可能な社会
- ◎自然の摂理にかなった循環社会

### 企業の役割・社会的責任

- ◎価値創造
- ◎組織が社会に与える影響に責任をもつ
- ◎社会的課題の解決に貢献する

### 安全衛生理念

リマテックグループは、事業活動等を通じて社会への貢献を図るとともに、社員の安全衛生の確保は企業の存立の基盤をなすものであり社会的責任であることを自覚する。よって人間尊重の理念のもと、「安全第一」、「快適な職場環境」を安全衛生活動の基本理念とする。

### 環境理念

リマテックグループは地球環境の保全が人間の持続可能な発展のために不可欠な重要課題であることを自覚する。よって、環境負荷低減、省エネルギー、省資源に努め、環境との調和を図りながら、事業活動等を実践し、持続可能な社会の構築に貢献することを環境の基本理念とする。

### ■マネジメントシステム

リマテックグループでは、CSRと事業活動を一体のものとして推進することを目指し、「ビジネス」「環境」「労働安全衛生」の3つのマネジメントシステムを統合。「3つの視点」で日々の事業活動および課題解決に取り組んでいます。

### ■事業ドメイン

国や地域によって背景も原因も多種多様な環境問題。環境問題の課題解決として、リマテックグループでは「資源リサイクル事業」「再生可能エネルギー事業」の2つの事業を軸として、地域の将来を見据え、課題に柔軟に取り組んでいます。

### ■3つのチカラ

長年のノウハウと経験による「企画力」「技術力」「現場力」を結集させ、地域に根ざし、地域の声を聞き、そして地域の力を借りながら、それぞれが抱える課題の解決に貢献していきます。

## 安全をより確かなものに「リメンバーデー」の誓いと新システムの構築

1997年7月28日、私たちはリマテック九州において火災事故を経験しました。日頃の安全管理に努めていたにもかかわらず、発生してしまったこの事故を契機に、より安全な作業管理の必要性を痛感し、また教訓にしなければならないとの思いから、事故があった日を「リメンバーデー」に設定。毎年グループ各社が集まり「グループ安全衛生環境委員会」を開催しております。2016年も開催し、全社安全委員・全役員が集まり一丸となって安全への取り組みに対する意識向上・強化に努めています。

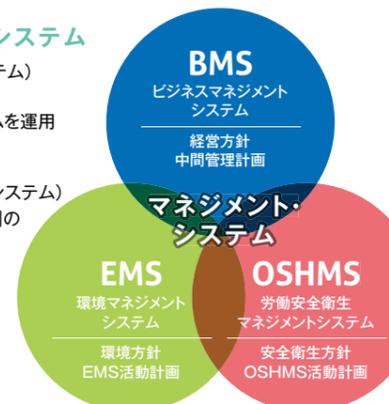
また、2016年は、ISO規格の改訂に伴い、グループ全体を管理する新たな統合マネジメントシステムを構築。各社が相互にノウハウを共有する関係づくりを強化するとともに、3年計画で各社が自立的にマネジメントシステムを運営していく「ガバナンス体制の確立」を目指します。 ※環境ISO14001:2015 ※労働安全衛生ISO45001(発行予定)



2016年リメンバーデーの様子

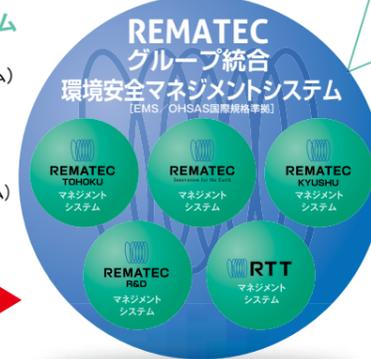
### ■従来のマネジメントシステム

- EMS (環境マネジメントシステム)  
→大阪地区・九州地区で  
2つのマネジメントシステムを運用
- OSHMS (労働安全衛生マネジメントシステム)  
→リマテックとリマテック九州の  
2拠点で運用



### ■新マネジメントシステム

- 2018年に確立  
EMS (環境マネジメントシステム)  
→グループ5社及び  
統括システムで運用
- OSHMS (労働安全衛生マネジメントシステム)  
→グループ5社がEMSと  
OHSASを統合し運用



### 新システムの目的

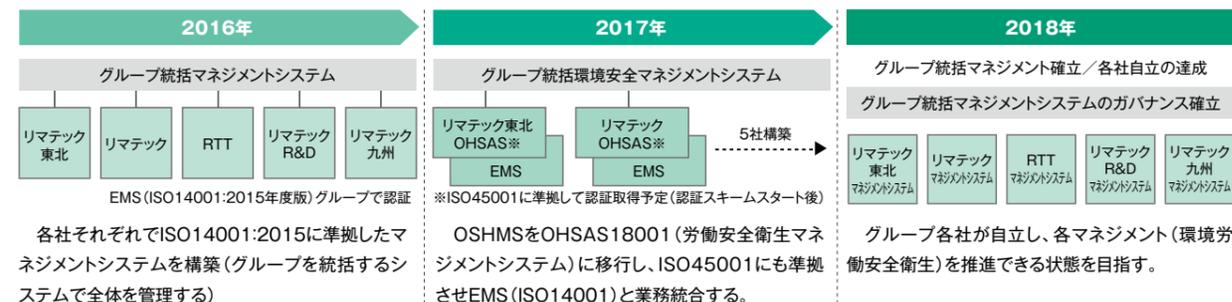
- ①グループ各社の自立的取り組みを推進し、相互にノウハウを共有することでグループ全体の底上げを行う。
- ②グループ全体を新しい国際規格に準拠させ労災及び環境事故を防止する。特にリスクに対する取り組みを新業務として加える。
- ③グループ各社に核となる人材を育成する。(委員会・連絡会・クロス監査を通して、力量向上を図り、各社システムの継続的改善を推進する)

### 新システムのメリット

- ★責任所在の明確化  
グループ各社でそれぞれが独立したマネジメントシステムを構築し、グループ全体を統括するシステムを稼働させることによりガバナンスが強化できる。
- ★事業リスクの軽減  
グループ各社が直面する事業リスクを分析し、事業継続を阻害する要因を排除するための取り組みをマネジメントシステムで管理できる。
- ★業務の効率化  
環境と安全を軸にISO規格改訂の狙いである業務統合を進め、重複する業務プロセスを解消し、業務の効率化を実現する。

### ■各社のマネジメントシステム自立を目指す「3年計画」

リマテックグループでは、グループ間の連携と各社の自立的取り組みを推進するため、3年計画でマネジメントシステム構築を進めています。



# 2015年度 リマテックグループ データ実績と3カ年目標

※2013年はリマテック株式会社各拠点のデータ、2014年以降は持株会社化後の数値を掲載しています。

## RF出荷量 対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社

### ■設備トラブルが出荷量に影響。日頃のメンテナンス強化で安定生産に取り組む

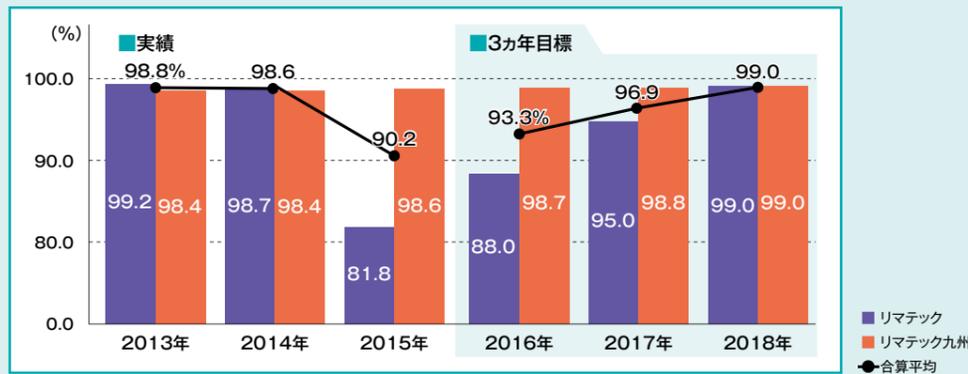
リマテック九州は、2014年12月の本格稼働以降、安定的な生産を継続、目標の出荷量を上回ることができた。リマテックは設備トラブルが大きく影響し出荷量減。3カ年の目標に向けた日々の点検、メンテナンスを強化し安定生産と段階的な生産増を目指す。



## リサイクル率 対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社

### ■設備トラブルがリサイクル率低下に影響。RF生産と両輪で向上を目指す

リマテックは設備トラブルによる生産減で残渣排出量が増大し、リサイクル率が大幅に低減。RF生産の安定供給との両輪で改善を目指す。リマテック九州は例年通りの実績を出したが、今後もリサイクル率の向上に取り組んでいく。



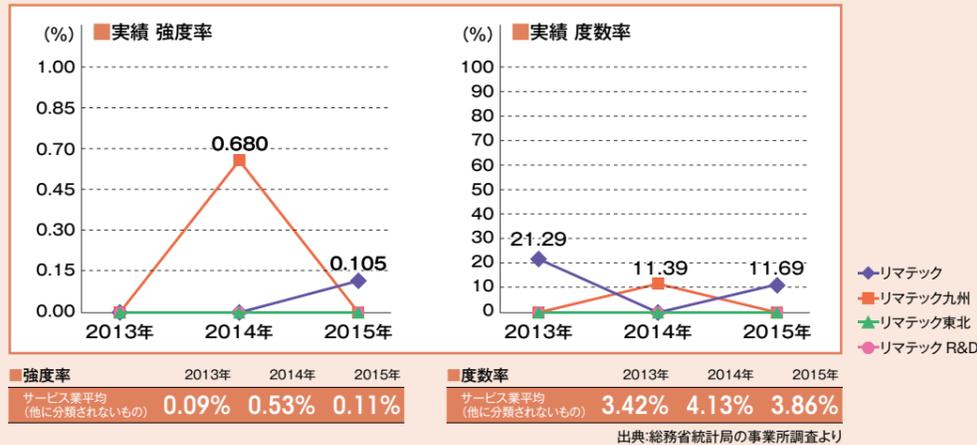
## 強度率 & 度数率 ※製造従事者 対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテック R&D 株式会社

### ■リスク管理の強化で0%達成を目指す

※集計期間/各年1~12月

災害発生件数は減少傾向にあるが、今後ゼロに近づけるため発生原因の追究と再発防止対策を行う。リマテック・リマテック九州共、ケアレスミスによる事故が散見された。

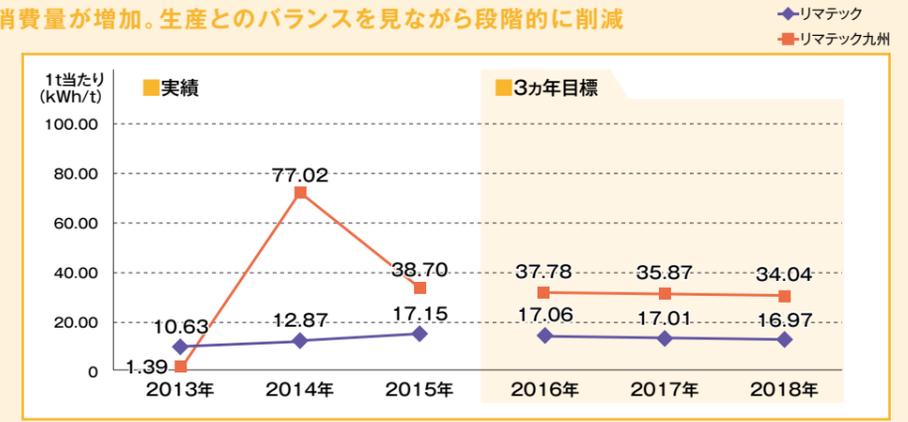
また、R&Dでは2次下請けの作業員の業傷事故(P12参照)も発生しており、災害撲滅に向けてリマテックグループ全体で災害事例の共有化と未然防止の取り組みを実施し、安全活動を推進する。



## RF電力消費量 対象/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社

### ■設備の導入等により電力消費量が増加。生産とのバランスを見ながら段階的に削減

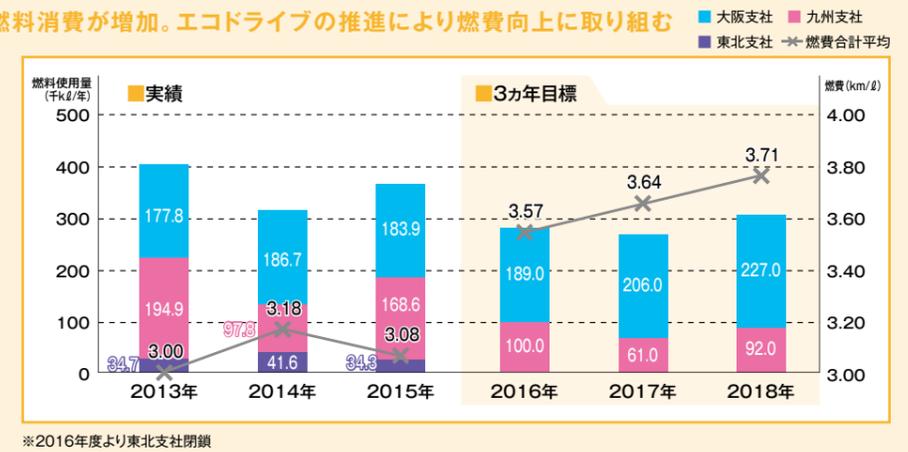
リマテックは脱臭装置導入により電力消費量が大幅に増加。リマテック九州は24時間操業と新プラント・新設備による運転で電力使用量が伸びたため、原単位増となった(2013年火災事故により復旧工事で電力を大量消費。RF生産期間は4ヶ月だったため必然的に生産量減となり原単位が増加)。リマテックと比較すると電力消費量が多く、課題が残る。両社とも段階的に削減に取り組んでいく。



## 燃料使用量と燃費 対象/RTT株式会社

### ■事故後の営業復調により燃料消費が増加。エコドライブの推進により燃費向上に取り組む

2013年のリマテック九州火災事故を受け、2014年は九州支店の受注件数に影響が及んだが、2015年は営業努力により復調。その結果、燃料消費量の増加となった。2016年以降は産廃部門をリマテック九州へ移行するため、燃料使用量は減少予定。今後3年はデジタルタコグラフを利用してエコドライブと安全運転の推進に努めると同時に、燃費の向上を目指す。

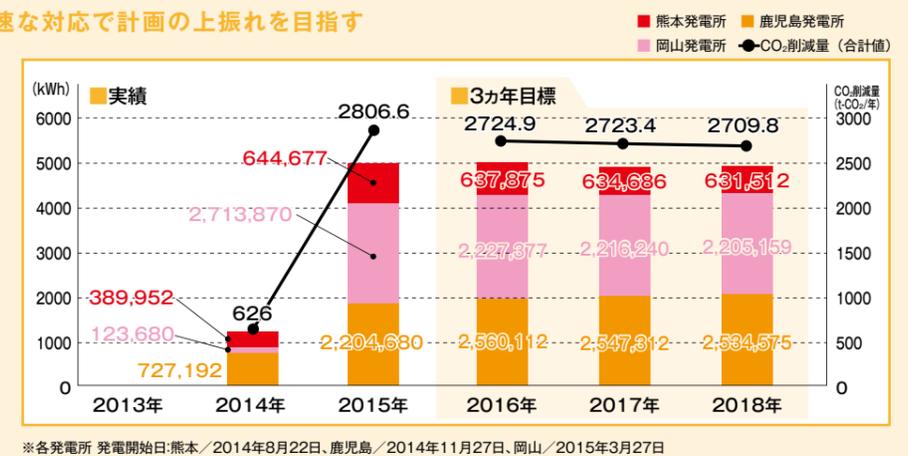


## 太陽光発電量 対象/熊本発電所、鹿児島発電所、岡山発電所

### ■データ分析と現地での迅速な対応で計画の上振れを目指す

2015年3月末日までに、太陽光発電所3カ所が稼働。悪天候が続いた月には計画未達になったり、台風などの影響でパネルが被害を受け交換が必要になるなど、発電への影響があったが、現地パートナーの協力により、年間では3カ所すべての発電所で計画を上回ることができた。

パネル劣化による発電量への影響が予想されるが、ストリング監視システムのデータ活用による無駄のない効率的な発電と徹底的なメンテナンス・コスト管理による利益計画の達成を目指す。



2015年度実績

リマテック

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	再資源化における環境活動	適正在庫・臭気拡散防止策を維持 エコ・ファーストの約束	適正在庫以下の保管維持100% 実績報告書の社内掲示順守率100%	25% 100% (12回)	× ○
	安定操業の推進	廃棄物安定確保 RF出荷目標の達成	廃棄物の入荷率100%確保 出荷率100%	96.0% 73.9%	○ ×
	RFの安定化	製造技術・安全管理の標準化、知的財産データの共有化	手順書文書化10件以上/年(各部署)	0%	×
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
安全衛生活動	人材育成	管理者による安全教育 業務スキルの向上 黒帯制度(部署内の教育の伝承)28件	安全教育27工数/年実施 資格取得の推進(年間34名取得) OJT教育	88.9% (24工数実施) 64.7% (22名) 114.3% (32件)	○ △ ○
	職場リスクの低減活動	リスクアセスメント低減処置実施 管理者/ハトール実施・改善提案書提出 マイエリア活動の推進	■工学的対策の実施(5件/年) ■洗出し・見積・管理的処置(90件/年) 管理者/ハトール(1回/月)・改善提案書提出15件/年 自身の持ち場の安全衛生の点検・クロスチェック実施(47件/年)	89.5% (工学対策12件・洗出し他73件) 100% 89.4% (42件)	○ ○ ○
		始業・月次・法定点検の確実な実施 フォークリフト作業の安全速度設定	始業前の社用車・フォークリフトなどの点検実施(294件/年) 10km/h以下で走行	82.8% (242件) 100%	○ ○

リマテック九州

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	
環境管理活動	安定操業の推進	電力削減(事務所) 産業廃棄物獲得量:26,600t 水質トラブル0件 騒音クレーム0件 臭気クレーム0件 漏洩事故0件 異常発生時の防災訓練 RFの安定生産達成:43,700t 供給トラブル0件	64,866kWh/年以下の達成 計画的獲得目標の計画と実施 水質チェック(pH・透視度) 発生原因の追究と改善 定期的な環境/ハトール 作業ルールの徹底 定期的な環境/ハトール 教育と監視活動の徹底 入荷廃棄物の全量分析 計画的な生産 設備点検・供給先との連絡を密にする	105% (61,383kWh/年) 94% (25,040t) 100% (0件) 100% (0件) 100% (0件) 92% (1件) 100% 101% (44,480t) 100%	○ × ○ ○ ○ × ○ ○ ○	
	安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全衛生活動	交通 防災 安全 衛生	交通事故ゼロ運動 異常発生時の防災訓練 事故・災害0件 健康個人目標達成	重点活動項目の掲示とシーズン毎の取り組み指導 休日や夜間、少人数での火災事故発生時の対応訓練を実施 ■リスクアセスメントの実施 ■場内リスク排除 健康個人目標作成と目標管理(85%以上)	交通事故・トラブルなし 100% 1件 95%	○ ○ × ○

RTT

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	地球温暖化対策	燃料使用量の削減・燃費:3.53km/ℓ	ドライブレコーダーによる運転指導	3.50km/ℓ	△
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
安全衛生活動	環境汚染の防止	漏洩事故の撲滅・発生率1%以下	作業手順の見直し、指差呼称の徹底	1%以下	○

R&D

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	温暖化防止	レアメタル回収事業の事業化 バイオマス利用エネルギー回収事業の事業化	進捗度 40% 進捗度 10%	100% 100%	○ ○
	情報発信	環境技術の認知度向上	工場見学の積極的受入	100%対応	○
	安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果
安全衛生活動	安全 衛生 防災 交通	休業:0件 不休業:3件以下 健康個人目標達成率:85%以上 地震等の災害への準備 交通事故・違反:0件	安全施工サイクルの定着、リスクアセスメントの定着 健康に関する個人目標の設定・実施 想定訓練(初期消火、実験室・プラントにおける業務事故、地震・津波に関する訓練) 運転者適正診断に基づく個人特性の把握	休業:1件(業務事故) 不休業:0件 85.6% 3件 交通事故:1件(物損)	× ○ ○ ○ ×

●ご報告：平成27年6月、当社が発注した工事において、2次下請会社の作業員が解体中の配管内の薬品を浴びて重傷を負う労働災害が発生しました。当社としては解体に伴う配管内の危険物質の危険性や対処法を元請けに文書で説明しなかったことがこのような重大な事故に繋がったと深く反省すると共に、全社を挙げて再発防止に努めます。

リマテック東北

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境管理活動	安全	休業災害「ゼロ」	0件	0件	○
	衛生	衛生個人目標 定期健康診断	達成率80% 実施率100%	91% 100%	○ ○
	環境	ゴミ分別方法の教育	QC手法を用いたゴミ分別方法教育	100%	○
安全衛生活動	防災	火災・地震発生時の避難訓練 廃棄物置場の適正保管及び温度測定	火災予防訓練・漏洩処置訓練・地震津波避難訓練 適正な高さ、量で保管し、温度上昇を抑制	100% 100%	○ ○
	交通	可搬式消火ポンプの操作方法周知 交通事故・違反	講習会開催 啓蒙ポスターの掲示、安全の日集會にて周知	2回実施 違反:0件	○ ○
		物損事故 飲酒運転の撲滅 重機・車両の運転技能向上	事故ゼロ アルコールチェックを当社時に毎日実施 重機・車両運転の就業指名の実施(就業指名の再評価と注意喚起)	車両による物損:2件 重機による物損:1件 違反:0件 100%	× ○ ○ ○

3ヵ年目標(2016-2018年度)

リマテック

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
環境管理活動	電力	製造	RF燃料1t当たりの電力消費量			工場前の外灯をLED化 ■稼働時間の短縮化		
			17.06kWh/t	17.01kWh/t	16.97kWh/t	稼働時間の短縮化		
	安定操業の推進	製造	RF出荷量			■RF燃料の安定化を図る ■購入油の見直し ■最適な配合率の確立		
安全衛生活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
	職場リスクの低減	製造/環安	0.05%	0.025%	0%	再発防止策の確認とフォローアップ報告の強化	再発防止策の強化と発生事故事例を基にした教育	作業教育と力量評価の実施

リマテック九州

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
環境管理活動	電力	製造	RF燃料1t当たりの電力消費量			■工場内の電力使用状況見直し ■タンク攪拌機の間欠運転等による電力削減 ■電力消費の多い設備の変更		
			37.78kWh/t	35.87kWh/t	34.04kWh/t	■工場内の電力使用状況見直し ■タンク攪拌機の間欠運転等による電力削減 ■電力消費の多い設備の変更		
	安定操業の推進	製造	RF生産目標の達成			■設備点検等の修繕活動の徹底によるRF燃料の安定供給 ■タンク内性状(pH・圧力温度等)の徹底監視による異常反応の防止		
安全衛生活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
	職場リスクの低減活動	製造/環安	0.05%	0.025%	0%	汚れた雨水の排出防止(pH:5.8以上~8.6以下、透視度:500mm以上)	雨水処理設備からの水質(pH・透視度)監視	■現場/ハトール ■非常時作業等の危険な作業時における現場立ち合い ■過去の事故災害の教訓を風化させず、次世代に継承する活動

RTT

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
環境管理活動	燃料使用量削減	全部門	3.57km/ℓ	3.64km/ℓ	3.71km/ℓ	管理者添乗によるムリ・ムダ・ムラの排除 車両入替		
	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
	漏洩事故撲滅	全部門	2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
安全衛生活動	漏洩事故撲滅	全部門	漏洩事故発生率1%以下(対運搬回数)			管理者添乗による基本動作の確認、自覚、納得および指導		

R&D

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
環境管理活動	温暖化防止	開発	レアメタル回収事業の事業化			廃棄物原料からバッテリー素材製造一貫プロセスの実証試験		
			実証試験進捗率 60%	実証試験進捗率 80%	実証試験進捗率 100%	事業可能性の検討 モデル事業開始		
	情報発信	企画業務	バイオマス利用エネルギー回収事業の事業化			タイ王国都市ごみ燃料化事業実証プラント建設開始		
安全衛生活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
	職場リスクの低減活動	全部門	要望対応率 100%			環境技術の認知度向上のため、見学希望受け入れ		
安全衛生活動	健康診断	全部門	受診率100%			現場の不安全不具合箇所の指摘と改善 改善提案制度の整備と改善サイクルの確立 点検機材・機器の把握と点検漏れの防止		
安全衛生活動	災害想定訓練	事務局	実施報告書の提出			定期および特殊健康診断受診 BCP概念を含んだ教育・訓練の実施		
安全衛生活動	交通防災活動	ダイバーシティ	交通KY 2回/年、適性診断テスト 1回/年			交通KY実施・適性診断テスト 計画書の作成		

リマテック東北

環境管理活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
環境管理活動	環境保全	製造/エンジニア	濁水の河川流出防止等委託先からの苦情ゼロ件			■雨天後の河川流出水の定期確認、対策実施 ■緊急事態への対応訓練(漏洩事故訓練) ■発塵防止、騒音振動の抑制 重機での燃料使用量削減策の検討、実施		
	法令遵守	業務	浄化槽の保守点検 法定基準の点検清掃実施			■法定点検の管理手順作成 ■運用、確認の実施 ■委託先業者への定期連絡依頼		
	資源循環	営業 製造/エンジニア	復旧事業から発生する当社請負廃棄物の全量適正前処理受入拒否ゼロ件			■委託先資源循環の新たな提案 ■国内資源循環量の向上 ■新処理方法の提案		
安全衛生活動	項目	組織	目標値			実施項目の計画		
			2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
	安全	全部門	度数率・強度率・千人率0%			■ヒューマンエラー対策の実施:KY活動、ルール順守確認 ■設備、動線変更での安全対策:改善提案の実施等		
安全衛生活動	製造	物損事故0件			■始業前KY実施 ■指差呼称定着化 ■専門教育の受講 ■基本事項の再徹底			
安全衛生活動	衛生	全部門	85%以上			■個人衛生目標の達成(個人ごとの目標立案・実施) ■定期健康診断受診		

※事業活動における電力についてはデータ取得中

## エコ・ファーストの約束：進捗状況

私たちリマテックグループは、産業廃棄物のリサイクルを行う企業としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、環境負荷を継続的に改善する活動を通じ積極的に社会貢献するため、以下の取り組みを進めてまいります。この取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省への報告を行ってまいります。



### 約束1 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します。

※適用/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社

- 排出先から受け入れた産業廃棄物のリサイクル率97%以上を維持します。
- 再生燃料化できる産業廃棄物を増やすための研究を進め、循環型社会の促進に貢献します。
- 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します。

#### 2015年 進捗状況

●各社リサイクル率



設備トラブル等により目標の97%には達成することができませんでした。今後は設備の改善を図り、受入可能な廃棄物を増やす研究・開発を行い、更なる安定操業の推進に努めてまいります。

### 約束2 地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します。

※適用/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社

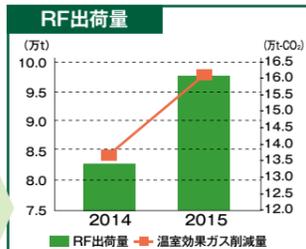
通常は焼却・埋立といった処理が行われる廃棄物も含めて、様々な工場から排出される多種多様な産業廃棄物を原料とし、独自の技術により、セメント工場等で利用する再生燃料(RF燃料)の出荷を、2019年まで現状より5%アップします。これにより、工場で使われる石炭等の化石燃料の使用量を抑えることを通じ、温室効果ガスの削減が図られ、低炭素社会の形成に貢献します。

※1tのRFから生み出される熱エネルギーは、石炭(一般炭)0.7tに相当し、約1.65t-CO<sub>2</sub>の温室効果ガスを削減できます。

#### 2015年 進捗状況

今年度のリマテックとリマテック九州でのRF出荷量の合計は97,400t。前年度比で14,854t、およそ18%のアップとなりました。それに伴い温室効果ガス削減量も、昨年度と比べ24,509t-CO<sub>2</sub>アップすることができました。2016年度からの3年計画として、2016年度目標RF出荷量98,000t(2社合算)・2019年度まで現状より5%アップを目指し、地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します。

◆前年度比  
RF出荷量 **18%UP**  
温室効果ガス削減量 **18%UP**



### 約束3 土壌・水質を汚染する廃棄物を有効活用し負荷低減します。

※適用/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社

主に、廃棄物由来のバイオマスを利用したエネルギー回収技術の開発に向けた取り組みを推進します。

#### ●バイオガス発電へのセミナー開催

2016年6月、東京ビッグサイトで開催された「バイオマスエキスポ2016」に出展しバイオガス事業支援をテーマに展示しました。また展示会会期中に実施される「バイオマスエキスポフォーラム」において、バイオガス事業に関する講演を行いました。非常に好評で、約200人程度の方々に参加して頂き、バイオガスへの興味関心層への啓蒙活動を行いました。



#### 2015年 進捗状況

●バイオガス発電への取り組み

2014年、食品系廃棄物等を利用したバイオガス発電施設を建設し2015年には発電を開始しました。年間の発電量は、817,110kWh。これは一般家庭の平均的な使用量(年間約5,315kWh)に換算すると約154世帯分に相当します。また新たなチャレンジとして、バイオガス化が難しい豚ふんへのバイオガス化(メタン発酵)システムを鹿児島大学、栄電社と共同実証試験(契約)を行うなど、今後も更なる地産地消の社会づくりに貢献することを目指して日々知識や経験、技術を積み重ねています。

年間合計発電量

**817,110 kWh**

年間使用量貢献数

**154世帯**

### 約束4 社内外における環境教育を積極的に実施します。

※適用/リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社

- リマテックみらい塾など、当社独自の環境教育を積極的に実施することで、環境分野における社会的課題に対応する人材を育成します。
- 廃棄物のリサイクルについて理解を深めるために、工場見学を定期的に企画・実施します。

#### 【海外からの工場見学受け入れ】

リマテックグループでは、海外からの工場見学も積極的に受け入れています。2016年7月13日、中国の環境産業の発展と環境状況の改善を目的とした環境関連技術研修のひとつとして「中国環境保護企業家代表団」の方々から堺SC工場を見学。2016年7月28日には泰日工業大学留学生支援実行委員会による堺7-3区の工場見学が行われ、泰日工業大学(タイ王国)からの留学生2名が見学に訪れました。また、2016年8月3日には公益財団法人太平洋人材交流センター(PREX)が実施するJICAの課題別研修「省エネ技術と技術者普及のための行政の取り組み」の一環として、インド・フィリピン・ヨルダン・パレスチナ・セントビンセント・ブラジルからの研修生がリマテック大阪工場を来訪されました。



#### 2016年度 活動内容

##### 【社内での教育】

2015年7月、人材育成・社員教育として、グループ全体でのISO14001:2015年度版 内部監査員要請研修及びテストを行いました。新たに任命された内部監査員を主に改定した環境マネジメントシステムに対する勉強会・各社環境分野に対しての取り組み方法・考え方を学びました。また、月1回、各社・各部署においての環境安全衛生委員会を開催し、環境に関する内部・外部の課題に対して積極的に取り組み、自分の業務に関係する著しい環境側面に伴う環境影響を考え、計画的に取り組んでおります。



##### 【社外への教育】

2016年7月16日、大阪府立大学の環境サークル「環境部エコロ助」に所属する学生10名が、リマテックのバイオガス発電プラント「MFパワー1号」及び大阪RF工場を見学しました。日ごろ環境問題に高い関心を持つ皆さんだけあって、質疑応答では、再生可能エネルギーやリサイクル技術に関する、レベルの高い質問をされていました。若い世代の方々に環境について関心を持って頂くために、環境教育の一環として、学生・社会人を問わず、外部からの工場見学を積極的に受け入れております。



#### エコ・ファースト推進協議会の活動

##### ●大学生との対話会(対話会名:環境おじさん御饒舌会)

2016年1月9日、おおさかATCグリーンエコプラザで、関西のエコ・ファースト企業10社と大学生82名の対話会(環境おじさん御饒舌会)が開催されました。企業活動と環境活動の両立について、大学生と本音ベースで意見交換を行い、学生と各企業担当者それぞれが実現したい未来に向けて目標を立てることで気持ちを新たにしました。



2016年9月3日、環境を守る取り組みをしている企業として環境省が認定しているエコ・ファースト企業40社のうち、関西に本社を置く10社

が集まり、琵琶湖に繁殖する外来魚駆除を目的としたボランティアを実施しました。

当日は、リマテックグループからは家族も含め11名が参加、また、環境省からも9名の職員が参加されるなど、合計247名が滋賀県大津市に集まり、釣果を競って楽しみながらブルーギルやブラックバスなど567匹、17kgの外来魚を釣りあげました。

なお、釣りあげた外来魚は、障害者福祉施設にて魚粉に加工した後、堆肥などに有効活用されます。

今回で4回目の試みですが、エコ・ファースト企業が一致団結し、素晴らしいボランティア活動を実施することができました。

リマテックグループは地球環境保全のための様々な活動に取り組み、今後もエコ・ファースト企業の輪を深め、環境活動を推進してまいります。

# さらなる進化と共有価値の創造を目指して

創業以来変わらない「環境への思い」を胸に、まなざしは未来に。リマテックグループは、これからも進化と挑戦を続けていきます。

## レックスの設立

3つの「強み」から生まれる、より高度な「資源循環インフラ」

新たな静脈産業ネットワークの拡大と持続可能な資源循環インフラの構築に貢献するべく、関西を拠点に再資源化事業を行う「(株)マルサン」「(株)関西再資源ネットワーク」「リマテックホールディングス(株)」の3社は、それぞれの営業部門を完全に独立・統合し、新会社「(株)レックス(Re:CS)」を設立しました。(2016年3月) 信頼のできる処理業者との提携、セメント会社や製鋼会社との連携した広域の物流システムなど、様々な形でネットワークを広げていくことにより、新規・既存のお客様のニーズに応えるとともに圧倒的な提案力による最高のサービスを提供することが可能となりました。

また、各社が保有する多様な廃棄物再資源化の施設とノウハウを活かし、多品目にわたる廃棄物の収集運搬から処理までを一元管理。コストダウンや廃棄物の有価物化など、今までにない新たな処理方法を提案することにより、資源循環ワンストップサービスを目指します。さらには「アイデックスグループ」「(株)浜田」「(株)中環環境開発」「KOTOKU GROUP」との提携で「レックスグループ」を設立。これまでにないお客様との間に築いた信頼を軸に、お客様の抱える廃棄物の最適処理を図るとともに、強固なアライアンスネットワークを構築し、資源循環インフラを創造します。



## 海外事業

### アジアの環境課題に取り組む2大プロジェクト

創業以来、様々な「環境分野における課題を解決するイノベーション」に挑戦してきたリマテックグループでは、日本で培ったノウハウを、経済成長に伴い顕在化した東南アジア諸国の環境問題の解決に役立てたいと、いくつかのプロジェクトを立ち上げ、取り組んでいます。そのひとつが、タイ王国における廃棄物適正処理システム。都市ごみ(Municipal Solid Waste=MSW)を分別せず埋め立てることにより、メタンガスの発生や周辺環境の汚染、火災といった問題を抱えているタイ王国では、MSW処理システムの構築が喫緊の課題。リマテックグループは、MSWを分級・石炭代替燃料化・メタン発酵させるプラントを建設し、タイ王国の温室効

果ガスの削減と省エネを推進させる仕組みを提案しています(図参照)。また、マレーシアにおいても、パームオイル産業のプランテーション開発による自然破壊や搾油工場からの廃棄物による水質汚染等といった環境課題に対し、搾油工程で従来廃棄されていたパーム空果房(以下「EFB」)に注目。太平洋セメント株式会社様と協同でEFBの発電燃料化に成功しました。パームオイルミルの未利用廃棄バイオマスの有効利用による環境負荷の低減と保全、日本市場へのバイオマス燃料としての安定的供給という課題を解決すべく、環境に優しい再生可能エネルギー事業を支えます。



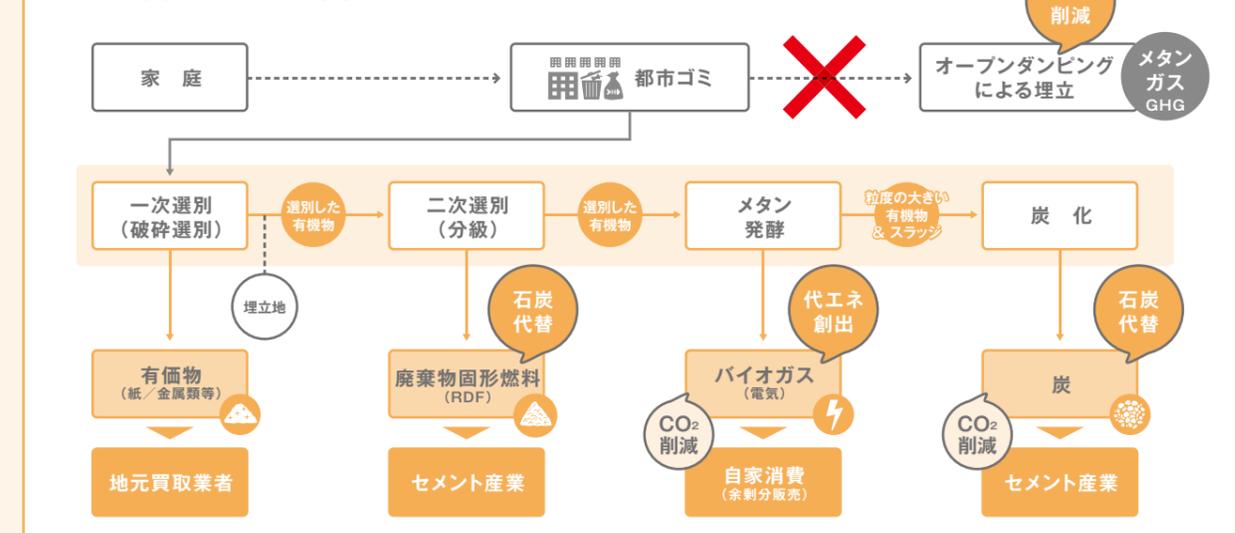
## レックスの強み～資源循環ワンストップサービス～



## レックスだからできること

- 01 リサイクル・マネジメント**  
お客様から排出される全ての廃棄物を、収集運搬から処理まで一元管理で行うワンストップサービスを提案。レックスの設立によるネットワークの拡大で、様々な処理技術や有価物化、再資源化など柔軟かつ幅広い提案が可能に。
- 02 コスト・マネジメント**  
グループ内の連携により、廃棄物適正処理の情報開示はもちろんのこと、廃棄物の有価物化、多品目を一度に契約することによるコストダウンの実現など、今までにない新たな処理方法を提案。
- 03 リスク・マネジメント**  
お客様が安心して処理委託できるよう、強い信頼関係で結ばれた3社がレックスを設立。安心・安全な作業現場の維持はもちろん、廃棄物処理のトレーサビリティを含む全てのコンプライアンス管理を徹底。

## タイ王国における廃棄物適正処理システム



# 「オールリマテック」で力を結集し 地域社会と未来をつなぐ

私たちリマテックグループは、グループのミッションでもある「環境分野における社会的課題の解決」を実現するため、各社それぞれの強みや特色を活かしながら「オールリマテック」で取り組んでいます。

■組織図



**海外事業 (海外環境課題解決など)**  
リマテックグループが日本で培ったノウハウを活かし、タイ王国の現地企業と合併会社を設立、都市ごみ問題に取り組むなど、様々なプロジェクトを行っています。

**バイオガス発電事業**  
有機性廃棄物を原料として、メタン発酵によってバイオガスを回収、電気や熱を創り出します。また、メタン発酵残渣は液肥として農地還元され (現在試験散布を実施中)、資源循環を生み出します。

**海難事故復旧工事事業**  
リマテックグループでは、貨物船座礁事故等の海難事故による流出廃棄物や流出油の回収、処理業務やコンサルティングを数多く行っています。

**研究開発・エンジニアリング事業**  
国内外の様々な環境課題に対して、リマテックグループのノウハウを活かした課題解決のための研究開発や、見学者受入などでの人材交流も行っています。

**復旧・復興支援事業**  
東日本大震災や広島土砂災害など、自然災害で発生した大量の災害廃棄物を、リマテックグループの総合力で、運搬・分析・高精度選別・再資源化まで一貫した処理スキームを構築。地域住民の暮らしと環境を守る、復旧・復興支援事業を行っています。

**不法投棄原状回復事業**  
不法投棄の支障除去業務及び再生燃料化・焼却などの処理や、原状回復計画の立案、現地設置施設設計などのコンサルティングを行っています。

**廃棄物リサイクル事業 (RF生産)**  
近隣工場などから受け入れた産業廃棄物をRF (Reclaiming Fuel / 廃棄物を利用した再生燃料) に生まれ変わらせ、セメント工場に供給。CO<sub>2</sub>削減など環境負荷低減に貢献し、近年はアジアへも技術支援をしています。

**太陽光発電事業**  
CO<sub>2</sub>排出量や化石燃料使用量の削減など、環境負荷低減のため鹿児島・岡山・熊本で太陽光発電事業を実施しています。

**資源循環サポート事業**  
リマテックグループ各社の利点を活かし、多様な選択肢の中から、最適な資源循環サービスをワンストップで提供しています。

**メンテナンス事業**  
タンク・ピット洗浄など、20数年間の設備メンテナンスのノウハウで、多様なニーズに対応。洗浄水等廃棄物のより良いリサイクル方法や処理方法までワンストップで提供しています。

**ネットワーク・物流事業**  
廃棄物やRF燃料など、リマテックグループの資源循環ネットワークを担い、安全と品質をモットーに運搬・輸送業務を行っています。

# リマテック株式会社



- 産業廃棄物処理事業
- 再生燃料(RF)製造事業
- 環境修復事業

地球環境保全の立場に立って適正処理を行い  
リサイクル・再資源利用・ゼロエミッションを  
追求します

当社では「産業廃棄物再資源化」という枠組みで、  
様々な環境分野における社会問題の解決に積極的に取  
り組んでいます。2015年にISO14001を2015年版  
に移行し、これに基づき2016年4月より規程等の見直  
しと運用を開始しました。組織の目的及び目標を改め  
て明らかにしたことにより、組織の外部及び内部の課題  
や、環境経営促進のためのリーダーシップ機能に関す



る責任が明確になりました。今後もこの規格に準じて廃  
棄物再資源化サービスを提供し、社会貢献やお客様の  
利益に貢献できるよう一層の努力を続けてまいります。  
資源循環型社会の形成は21世紀の人類が果たすべ  
き課題です。当社はこれからも弛まぬ努力を続け、グ  
ループ会社の協力を得ながら課題解決の実現に寄与す  
る事業を構築していきます。

## TOPICS

### 熱中症対策を行っています

当社では、荷卸し作業やサンプル採取作業を日中に行うため、熱中症対策として時間外休憩を奨励し、無理をしないよう声掛けをしていますが、なかなか実施されていません。そこでWBGT(暑さ指数)を測定することで危険度を「見える化」し、数値を参考にしてもらうことで早期発見、早期休憩を実施できるよう周知を進めています。



### 漏洩対策に取り組んでいます

当社の危険物施設は、1993年以来改修を繰り返してきましたが、ポンプ性能が悪化したこともあり、全面的な改修工事を実施しました。シール等からの漏れが生じていたこともあり、2016年に3基の改修を行いました。また、構内に設置している廃液タンクに循環システムを導入し、閉塞しないよう管理を行っています。さらに受入部位についても、負荷状態を把握し、無理な加圧がないか確認できる監視体制を強化しました。



## トップコミットメント

キーワードは「変わることを楽しもう」

代表取締役社長 藪 哲之



当社は、最重要課題として「RF安定供給+高品質=信頼向上」を掲げています。そのためには①全社員が一丸となって関係各社との連携をスムーズに実施し、相乗効果を生み出す。②バイオマス発電の設備及び運転管理改善を実施し効率アップを図る。③安全衛生活動について、決して妥協せず、確実に運用する。④環境保全活動はISO14001:2015年版への移行を確実に実施する。という4つの取り組みを確実に実践することが必要です。地域社会や自然環境との調和を図り、再生可能エネルギーといった社会的ニーズに取り組みながら、持続可能な社会づくりに貢献できる企業を目指し、邁進してまいります。

## from ステークホルダー

### 地域に根ざし、新しい社会システム構築の先進企業に

社団法人 大阪府産業廃棄物協会 会長  
株式会社 興徳クリーナー 代表取締役  
片淵 昭人



国内の産業廃棄物処理業界を取り巻くこれからの経営環境は、人口減少に伴う廃棄物発生量の絶対的な減少にはじまり、企業の海外移転、異業種からの新規参入など、非常に厳しい状況が予想されています。廃棄物を適正に処理するといった現状のままの業態だけでは、業界の大きな成長を望む事はできなくなってくると思われます。

リマテックグループは「リマテックホールディングス株式会社」を中心企業として、多くのグループ企業を抱えておられます。その経営理念を基に、常に業界の先進的な企業として先頭を走ってこられました。あるべ

き社会像を明確に描かれ、企業としての役割や社会的責任を果たし、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題を真摯にとらえ、それらを解決すべく努力されている姿勢は賞賛に値します。産業廃棄物処理業界の課題を克服する大きなヒントも、リマテックグループの企業活動のなかに隠されているのかもしれない。弊社も前身である「近畿環境興産株式会社」の時代から、同じ岸和田市の企業としてリマテックグループを目標に頑張ってきました。

産業廃棄物処理業から総合環境事業へと大きな変革時期を迎えている今、地域に根ざした複合的なインフラとなるべく「新しい社会システムを構築する」先進企業として大いに世界に貢献されることを期待しております。

## from 社員

### 一人一人の「人間力」を高め、信頼される企業に



製造部 係長  
阪口 久士

2007年4月入社から10年の佳節を迎えました。係長として部下を指導する立ち位置になり困惑することも多々ありますが、社長が掲げている「変わることを楽しもう」というキーワードを常に心がけています。廃棄物の処理はローテク作業が多く、安全性を確保しながら操業運用することは目に見えない労力が必要です。しかし実際に設備を動かすのは「人」です。自分自身はもちろん部下に対しても、知識面や技術面のスキルアップ・レベルアップを目標に管理・指導を進め「人間力」を高めていきます。適正処理を遂行することで信頼を勝ち取り、ステークホルダーの皆様にも評価されるよう努力してまいります。

# リマテック九州 株式会社



- 産業廃棄物処理事業
- 再生燃料(RF)製造事業
- 環境修復事業
- 設備メンテナンス事業

## 化学プラントと同様の安全設備を備えた再生燃料「RF」製造所

当社は、産業廃棄物をセメント工場向けの再生燃料(RF: Reclaiming Fuel)に再資源化する「RF事業」を中心とした事業を行っています。入荷された産業廃棄物は専門の分析所内より全て成分分析を行い、その後、混合試験にて化学反応による発熱等のリスクをpH・温度などあらゆる角度から洗い出し、細心の注意を払いながら日々、産業廃棄物中間処理を行っています。また、



混合にて製造されるRFに対しては、石炭に代わる代替燃料としての熱量(カロリー)確保に向け、更なる品質向上と安定生産確保に向け日々、研究を重ねています。2013年12月の工場再建当初に比べ、工場稼働率も上がり、出荷量も順調に伸びてきていますが、これからも「安全・安心・信頼」を念頭に日々、安全第一で取り組んでいきます。

### キーワードは「進化」と「強靱」

代表取締役社長 矢野 真一郎

当社の経営基本方針は、全てのステークホルダー満足度の最大化です。排出事業者から依頼された廃棄物の適正安定処理と、地域との共存共栄を経営の柱におき事業を展開しています。保有している業界トップクラスの最新鋭設備の利点を最大限に活かすべく、全社員が日々スキルアップに努め、少しでも地球環境の改善に寄与して行きたいと考えています。今後の事業展開としては、持続可能な社会づくりに貢献すべく、時代の要求に沿った「進化」と、あらゆる状況に対応できる「強靱」な体力を備えた、会社づくりを目指します。

トップコミットメント



from  
社員



日々の作業を大切に、  
事故の再発防止に  
努めたい

製造部 製造課  
藤田 洋司

リマテック九州に入社して10年目、その間には充実した日々だけでなく、会社の存続を左右する事故も経験しました。事故から1年間は昼夜を問わず、工場再建に向け製造課全員で一日でも早い稼働を目指して、再建作業に取り組みました。多くの方々の支援のもと、2014年から本格的に稼働が始まり、搬入物の全量検査や24時間操業による明確な分業制の導入により、以前より格段に安全性が向上し、私達作業も安全に作業が行える環境になりました。与えて頂いた働き場を決して失わないよう、日々の作業に入る前の危険予知を怠らず、一日一日の作業を大事に「事故の起きない」「皆さんから安心・信頼される」会社を自分達の手でつくっていきます。

## TOPICS

### 処理困難物安定処理への対応強化を行いました

2015年度、リマテック九州は2014年12月に操業を開始した新工場の安定稼働と「処理困難物の安定処理」に取り組みました。

処理困難物の安定処理については、工場敷地内に処理困難廃棄物専用の30㎡タンクを1基増設。安全・適正な処理を確かなものとするために、受入れ前に反応物質の濃度やpH、圧力等の検査を徹底して行っています。

こうして月間約100tもの処理困難廃棄物の受入れが可能になり、これまで廃棄物の処理に困っていた顧客の皆様の要望に応え、安定処理する体制が確立されました。

今後も、排出事業者様を始めとするステークホルダーの皆様へ寄り添い、環境分野における様々な課題の解決に積極的に取り組んでまいります。



### 3カ年安全計画の目標達成に向けた取り組み

今年度は、安全の3カ年計画目標【度数率:0% 強度率:0%】の達成に向けた初年度であり、目標を達成するために、当社は以下の事項を重点的に取り組みます。

- ①非常作業など特に危険な作業を完全に把握し、立ち会い・現場監督から不安全行動等に対し徹底指導を行う。
- ②その他、定期的に強化パトロールを実施し、工場全体の不具合箇所や4Sの乱れの改善に取り組む。
- ③過去に発生した事故・災害の経験や教訓を風化させず、次世代に継承する活動に取り組む。

(例:過去の事故の日付をカレンダーにのせた「リメンバーカレンダー」の作成)

以上の3点を重点的に取り組み、場内の不安全行動・状態等を無くし、安全な職場環境の基礎を作り上げる事に尽力します。



from  
ステークホルダー

### 都松地区の企業として、 地域と共に発展を

都松地区振興協議会 事務局長  
大戸 雄治



中でも、最大の行事はお盆に行われる「ふるさと祭り」ですが、リマテック九州社には350人を上回る参加者のために焼肉コーナーの提供とその準備・運営・片付け等を率先してやって頂いています。御社のおかげで小さな地区にもかかわらず多くの参加者で賑わっています。また、4月の「殿様街道歩こう会」では多くの社員の参加、6月の環境部会主催の「美化作業」では地域共生室の社員の参加、拡大役員会・総会には矢野社長の参加など、物心両面にわたって支援を頂いております。また、年4回開かれる都松地区の環境対策協議会では、毎回、リマテック九州社の公害防止や安全操業に向けた真摯な取り組みが報告され、地域住民との意見交換を通して地域とリマテック九州社との相互信頼が増してきていると感じています。このほか、国道沿いの花壇の整備や清掃活動、早朝の交通安全啓発活動など地域の企業として社会的存在感を示しています。

リマテック九州社が、今後とも地域との共存共栄を基本に、環境先進企業として益々発展されることを心から願っています。

昨年3月に発足した都松地区振興協議会は、地域の歴史や文化の伝承を目的とした「ふるさと部会」、児童・生徒の健全育成を目的とした「子育て部会」、自然環境の保護や公害防止を目的とした「環境部会」、地域住民のふれあい・交流を目的とした「ふれあい部会」の4つの部会に分かれて活動しており、地道な取り組み・活動を通じて、地域の一体感や絆の再構築が徐々にではありますが図られてきています。こうした活動は、役員をはじめとしたボランティア活動と臼杵市からの補助金、リマテック九州社をはじめとする協賛企業による寄付金、地区の拠出金等によって運営されています。

巻頭

特集1

エコ・ファースト

特集2

企業情報

DATA

# リマテック東北株式会社



- 資源循環に関する請負業務
- 廃棄物再資源化コーディネート業務
- 地域再生可能エネルギーシステム構築に関する業務



地域の再生に向けて作業が進んでいる大船渡市内

## ステークホルダーとの協創による新たな事業・価値の創出に向けて

東日本大震災から5年が経過し、当社も持株会社化から3年目を迎えました。当社の拠点がある岩手県気仙地域はまだ復興半ばの状況にあり、「安全第一」をモットーに高台造成工事等から発生する抜根（樹の根）や土砂を、セメント工場で原燃料化するための前工程作業を行っています。また東北地方のお客様が抱える課題解決に向け、リサイクルや有価物化のご提案を行う「廃

棄物再資源化コーディネート業務」にも積極的に取り組み、地域未利用資源を活用した再資源可能エネルギー導入も、引き続き可能性の追求を行い、地域活性化の推進力となるべく日々活動しております。リマテックグループとしてこれまでに培った経験とノウハウを活かし、「ステークホルダーとの協創による事業・価値の創出」に向け社員一丸となって邁進します。

### トップコミットメント



取締役 野村 朋員

### 企業の礎を築き、地域に必要な企業に

リマテック東北は、持株会社化後に設立されたまだ若い企業です。グループの方針でもある「安全は何事にも優先する」を意識しながら事業活動に取り組んでいますが、物損事故がゼロではないことから、当たり前のことを追求するという「凡事徹底」の姿勢で取り組んでまいります。また、2016年度下期にはISO14001認証取得をし、事業活動における環境負荷低減への取り組みもスタートしました。着実に企業としての礎を築いていながら、最大のステークホルダーである太平洋セメント大船渡工場様、並びに復興を目指す地域にとって、なくてはならない会社として評価頂けるように、日々努めてまいります。

### from 社員



### 復興を目指す地域の「頼れるパートナー」に

事業開発部 齊藤 亜矢子

リマテック東北は、東日本大震災による災害廃棄物の処理業務終了後も、地域の特性をいかした資源循環に貢献できるよう活動を行っています。私は除塩グループに配属され、昨年度から営業部門のサポート業務を行っていますが、今まで携わっていなかった産業廃棄物業務を行うなかで、燃料や原料としてリサイクルすることができるものがこんなにあるのかと知識を広めることができました。東日本大震災から5年がたち、現在も復旧・復興工事が進められるなか、地域の皆さんが、「どうしよう!」と困った時に一番に思い出してもらえる会社になれるよう、社員全員で目指していきたいと思っています。

## TOPICS

### 資源循環の提案をしています

#### ①廃棄物再資源化コーディネート業務

復興関連事業以外で発生する廃棄物の資源循環に関し、地域の特色を活かした新しい資源循環方法を三方よしの精神（売り手・買い手・世間）で提案しています。

#### 取り組み事例

- 廃グリセリンの燃料化
  - アスファルト製造工場のボイラー燃料に使用
- ベントナイト汚泥のセメント原料化
  - 受入補助機材の自社制作・使用により受入可能に



廃グリセリン



ボイラー燃料化

#### ②海と山と人をつなぐ地域再生可能エネルギー大船渡プロジェクト

復興庁の新しい東北先導モデル事業として2014年度に採択されたプロジェクトに継続し取り組んでいます。

#### 2015年度取り組みの一例

- 復興住宅で排出される生ごみの回収実験
  - メタン発酵の原料として実証試験で使用
- 前年度の試験で製造した液肥（消化液）を活用し、資源作物の生育評価を実施
  - 即効性があり化学肥料より生育状態が良い



液肥散布



生ごみ回収実験

### from ステークホルダー

### 共に協力し合い、次世代に誇れる企業を

太平洋セメント株式会社 大船渡工場  
工場長 日高 幸史郎



東日本大震災から5年半、大船渡市全体の復興も目に見えて進んできております。これも震災直後からいち早くがれき処理に取り組んで頂いたリマテック東北社の多大な功績によるものであり、改めて感謝の意を表する次第であります。

がれき処理と並行し、2013年10月からはリマテックホールディングス事業として、資源循環型社会形成及び地産地消のエネルギー創出を目的とし、大船渡市にてバイオガス発電事業実証試験にも取り組んで頂き、実証化への目処もつけられております。さらには、当工場内のバイオマス発電計画に対して、東南アジアでの新規燃料開発事業にも鋭意取り組んで頂いていると

ころであり、この事業の成否で当社発電事業が左右されるといっても過言ではありません。幾多の課題があり事業として確立するのは困難な道のりと思いますが、これも総合的な技術開発力を持つリマテック社だからこそ成し遂げられるものと確信しております。

高い技術力、情報収集力、機動力等様々な優秀な人材を抱え、工場の発展に寄与頂いているリマテック東北社には、今後とも我々のリサイクル事業の運営、また新たな事業の探索等、共に協力し合い、次世代にも誇れるような会社、工場づくりを行っていきたくております。

# リマテックR&D 株式会社



- 海外事業
- 新規事業・技術の開発



## ポストCOP21をリードする事業開発を 国内外で積極的に展開中!

リマテックR&D株式会社は、リマテックグループが国内外で培ってきた技術・ノウハウを活用して、多様化・複雑化を見せる国内外の様々な環境課題に対して、コンサルティングや事業化を通じたイノベーションによる解決に取り組んでいます。

地震大国である日本は、地球温暖化の進行による気候変動も顕著となり、東日本大震災や広島土砂災害など被害の著しい災害が多発しています。

私たちはこうした災害に企画力・開発力・現場力・地

元力を基にしたコア技術を集約して解決を行ってきました。

今は継続する2つの開発プロジェクト(右記参照)を柱としつつ、グループ発祥の母体となった「漁業」にまつわるプロジェクトにも取り組んでいます。従来我々が得意としてきた科学的・技術的アプローチに加えて、魚食や漁業といった社会的な観点も取り入れて、低炭素社会実現に貢献する企業を目指しています。

### トップコミットメント



### 環境課題の解決に向けた オープンイノベーションの展開

代表取締役 **西原 充幸**

2015年12月、パリでCOP21国際会議が開催され、低炭素社会に向けた高い目標と5年毎の更新が採択されました。その前月、ドイツにおいて再生エネルギー法案を執筆したハンスヨゼフ・フェル氏が来社され、意見交換の中で我々の資源循環事業等の活動に対する高い評価を頂きました。

メタン発酵による発電で得たエネルギーを蓄える電池材料の開発や、環境保護に役立つ海洋資源を有効利用した栄養骨材との開発など、ステークホルダーの皆様と共にオープンな技術イノベーションによって世のニーズに迅速に対応して、環境課題を解決すべく努力してまいります。

### TOPICS

## リマテックグループの独自技術を用い、パートナー企業と共に事業化を目指します

### ① 石炭代替燃料の製造・活用に基づく省エネ推進事業 (タイ王国)

リマテックグループが保有するリサイクル技術(廃棄物分級・石炭代替燃料化・バイオガス化等)を組み合わせたプラントを建設して、タイ王国の自治体・地元企業と協力して都市ごみ燃料化事業を行うことによる、廃棄物適正処理推進とエネルギー回収による省エネ推進の両立を目指しています。

2015年度にFS調査を完了し、現在、実証プラント建設に向けて準備中です。2017年度にはプラントが完成し、4か年の予定で地元自治体から発生した都市ごみ(200t/日)を利用してセメント工場向け燃料の製造及びバイオガスによる発電の実証を行う計画です。なお本事業は、NEDO国際エネルギー消費効率化等技術・システム実証事業として委託を受けて実施しています。



タイ王国における  
ごみ質調査の様子  
(2015年度実施)

### ② 廃棄物由来の低コストバッテリー原料開発

低炭素社会構築の手段として期待される再生可能エネルギーは、発電と消費ピークのズレを解消する需給調整が大きな課題。これを解消する安価なバッテリーの開発が期待されています。当社ではバッテリーの低コストのため、主原料となるレアメタルを廃棄物から回収し、バッテリー素材を製造する一貫プロセスの事業化に取り組んでいます。

2015年度は低コスト化プロセスの開発を行い、現在パイロットプラントによるプロセス評価を実施し、テスト生産開始を目指しております。



### ③ 国内外への技術情報発信

当社では、グループの取り組みを社会に広く理解して頂くために、施設への見学者を広く受け入れております。2015年度はドイツ緑の党をはじめとして、JICA研修、大学の修学、市民団体の活動など、計159名の方に見学をして頂きました。

また次年度には、タイ王国からのインターンシップ受入も予定しており、アジアを中心とした技術情報の発信を積極的に進めています。



### from ステークホルダー

### 資源循環による 海域環境改善の重要性

大阪府立大学大学院  
人間社会システム科学研究科  
教授  
**大塚 耕司**



私どもの研究グループでは、科学技術振興機構の研究助成を得て、大阪湾を舞台とした持続可能な漁業と魚食文化の構築を目指した研究を進めています。

その目的は、多世代共創により、漁場環境、漁獲、流通、消費といった課題に対して、総合的に評価、改善していくことですが、その中核技術として、魚アラを用いた栄養供給骨材を利用した漁場環境の創出を位置付けています。

海から出た副産物を用いて海を改善する、というコンセプトは非常に重要です。今回の研究プロジェクトにおいても、リマテックR&D様と協働でこの重要な課題に向き合っていきたいと思っています。

### from 社員

### R&D社員に求められる役割

技術部 エンジニアリンググループ  
**恒吉 七洋**



リマテックR&D株式会社には、主に企画、研究開発、エンジニアリングの3つのグループが存在し、私はプロセスの装置化を行うエンジニアリンググループに所属しています。

現在私は、廃棄物由来バッテリー原料製造のパイロットプラントの試験に取り組んでいます。機器に必要なとされる性能や機能の知識など、学ばなければならないことが多く、またラボのデータを実機レベルで具体化するために解決すべき課題もたくさんあり、大変ですが、ひとつずつ学んで確実に吸収し、期待に応えられるよう頑張っています。

# RTT株式会社



- 産業廃棄物収集運搬業
- 一般貨物運送事業
- 設備清掃作業等



## TOPICS

### グローバル物流を推進するための フライアッシュ輸送を開始しました

リマテックグループは、バイオマス燃料の供給量不足に対し、技術開発力や豊富な海外ネットワークによる課題解決を進めており、今後、輸入、発電所からのフライアッシュ（燃料を燃焼させたあとの燃え残り）の輸出の増加が見込まれます。

当社は、これらを支えるグローバル物流を推進するために、まずは、バイオマスや石炭火力発電所のフライアッシュのセメントや建材工場への資源循環輸送をはじめました。地球温暖化対策に対し燃料使用量を削減（添乗によるムリ・ムダ・ムラの排除、実車率〔空車をなくす〕の向上）、環境汚染の防止として漏洩事故の撲滅（添乗による基本動作の確認、自覚、納得および指導）をお約束します。

石炭灰は粉粒体輸送専用車両で運搬し、積み込みは工場のサイロから車両の上部ハッチに落とし込み、荷卸しは受入タンクに圧送にて送り込む方式です。一見、簡単な作業に思えますが、石炭灰の状態（比重など）により、積み込み・荷卸し時間の変動、過積載にならない積込量の判断、配管詰まりなどが発生します。臨機応変な対



処を行うには経験とコツが必要です。当初、当社には粉粒体輸送のノウハウが全くありませんでした。そこで、乗務員が親会社の三岐通運株式会社に出向き、車両の基本操作・マニュアル化ができないコツ・異常発生時の対処方法などの厳しい研修を1か月間行い、プロの技術の経験を積みました。

乗務員は、特殊車両の操作技術を習得することでプロドライバーとしての自信につながり、仕事にやりがいを感じることで責任感が高まっています。特殊車両のプロとして安全意識が向上し、新たな挑戦への意欲に満ち溢れています。

## プロドライバーによる安全と品質のご提供をお約束します

当社では、大阪・九州に拠点を置き、産業廃棄物収集運搬については、23都道府県の許可を取得しています。関西・九州地域は自社車両で、関東・中部・中国・四国・その他の地域はパートナー会社と連携することで、日本各地に物流ネットワークを広げ、お客様の多種多様なニーズにお応えしています。グループのメイン事業であるリサイクル燃料(RF)は、トラック及び船舶でセ

メント工場へ輸送しています。船舶輸送は一隻で約700t(トラック換算で約70台分)の輸送が可能で、CO<sub>2</sub>削減に大きく貢献しています。また、設備清掃作業においては、長年の経験で培ったノウハウを活かし、安全かつ迅速に行うことで、お客様に安心の提供と低コスト化を実現しています。動脈・静脈物流の一端を担う物流会社の責任として、安全と品質をお約束するプロドライバーの人財づくりを、当社の最優先の取り組みとしています。今年、「忘れるな 基本動作とプロ意識」を安全スローガンに掲げ、全社一丸となり取り組んでいます。

## トップコミットメント

### お客様、従業員との信頼関係の構築

代表取締役 久永 勇



私たちは、お客様のご要望に対して最高のサービスをご提供し、また、お客様自身が気付いていない問題を把握し、その解決に向けてご提案、実行することで信頼関係を構築できると考えています。当社のサービスそのものではなく、それらから得られる「満足」を買って頂くことで、より強固で積極的な連携が生まれてきます。お客様の満足が、当社の幸せであると感じています。

一方、従業員との信頼関係は、まず、私に興味を持ってもらうために「自己開示」し、距離感を肌で感じながら、焦らず、少しずつ構築しています。私の勝手な想いで信頼関係が深化することはありません。誠実さ、謙虚で驕らない態度、相手への感謝、気配りの積み重ねで、自然と思いが通じ合っていくのだと信じています。

## 社員

### 自分への挑戦 乗務員とコミュニケーションを取りつつ安全を確保

私は、物を運ぶ仕事に20数年携わり、そのうち産業廃棄物の収集運搬業務を12年行ってきました。そして今年の4月からは、新たな挑戦として運行管理の仕事を担当することになり、畑違いの業務が自分に務まるのだろうかと思いつつ日々格闘しています。私の役目は、運転手の安全を守り、事故を起こさせない事です。人的なミスで事故が起こったとき、原因のほとんどは確認不足。私は積極的にコミュニケーションをとり、体調の変化や心の動きを感じ取りながら、運行前の確認作業を確実にを行います。また、運搬に関して、無駄な時間を無くし運ぶことで回転率を高め、お客様の廃棄物収集運搬費用の削減に貢献します。



運行部 主任 吉田 孝

## from ステークホルダー

### これからも、リマテックグループの「現場力」に期待

三岐通運株式会社  
環境資源事業部 課長  
水貝 陽介

当社は30数年にわたりRF燃料の運搬でお取引をさせて頂いており、また、2010年にはリマテックさんと弊社との共同出資によりRTT株式会社を設立するなど深いお付き合いをさせて頂いております。

私はRTT設立から約3年間、RTTに出向し業務に携わらせて頂きました。その中で最も印象に残っているのは、リマテックさんの現場力です。東日本大震災が発生した際、膨大な震災がれきを処理するには、たくさんの労働力が必要となります。そこで地元の方を採用し、

セメント処理が可能なレベルまで選別のノウハウを教育し実践されました。まさに現場力だと思えます。

現在、物流業界では慢性的な労働者不足が深刻化しており、ドライバーの確保が課題となっております。労働者不足を補うため、RTTさんとは繁忙期、閑散期にはお互いの業務を相互応援する人事交流を行っています。これもまた現場力だと思えます。

この現場力を活かしてリマテックグループ全体がますます発展されることを期待しております。また、当社も御社とのアライアンスでお互い相乗効果が得られますよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。



# REMATEC & KSN THAILAND



●タイ王国及びアジアにおける  
資源循環事業の企画・開発・投資



## リマテックグループのノウハウが 新興国の環境課題を解決

REMATEC&KSN THAILAND (RKT) では、タイ王国における廃棄物リサイクル事業の企画推進をはじめ、アジアにおける未利用資源の活用事業開発、およびそれら事業への投資を主な業務としています。

目覚ましい経済成長の一方で、分別不十分な都市ごみの埋め立てや野焼きによる環境の悪化が問題となっているタイ王国。RKTでは日本で様々な環境課題に対

応してきたリマテックグループのノウハウを活かし、廃棄物を燃料として利用する処理フローを考案。2015年11月にはサイアム・セメント・グループと合弁会社を設立し、本格的な事業をスタートさせました。これからもタイ王国の人々と力を合わせながら課題の解決に取り組み、グループにおけるアジア展開の核となれるよう挑戦を続けていきます。

## TOPICS

### オンヌット中間MSW処理施設を設立

現地パートナーSCGの子会社であるSCI ECO Services Co., Ltd. とRKTとの合弁会社Green Conservation Solutions (GCS) が設立したRDF (廃棄物固形燃料) 工場。SCGのセメント工場で使用される石炭の代替燃料として、都市ゴミ (MSW) に含まれるプラスチックからRDFを製造することにより、代替燃料が確保できる他、埋め立て処分場にて処理するゴミ量の軽減及び有機物からの肥料を製造し、環境負荷の軽減に貢献します。



### マレーシアバイオマスプロジェクト

バイオマス発電の燃料は、主に木製チップ、パーム椰子殻 (PKS) 等を使用していますが、その量に限りがあります。そこで、パームオイル搾油工程でこれまで廃棄されていたパーム空果房 (EFB) の発電燃料化に注目し、太平洋セメント株式会社様、サラヤ株式会社様ら

と共に技術開発を進めてきた結果、燃料化に成功しました。カーボンニュートラルで環境への負荷が少ないバイオマス発電の更なる普及のため、日本のみならずアジアをフィールドに取り組んでおります。



## トップコミットメント

### 日本国内で培った技術やノウハウを 東南アジアの資源循環インフラ構築に

REMATEC & KSN (Thailand) Co., Ltd CEO  
Chanet Rattakunjara



タイ王国を含むアジア諸国連合 (ASEAN) は10年間で飛躍的な経済成長を果たした反面、環境問題及びエネルギー問題が発生しています。特に環境問題は急激な経済成長により資源循環そして環境インフラの整備が追いついていない状況にあり、急務な解決を必要としています。かつて日本でも経済急成長期に経験した問題をまさに今、ASEAN各国が経験しています。資源循環型インフラをキーワードに、この問題を解決すべく日本国内でリマテックそして関西再資源ネットワークが培ったノウハウを現地のパートナー企業と共に、ASEAN各国に合ったシステムや仕組みに最適化し、ASEAN各国の状況に合った環境インフラの構築を提案してまいります。

## from ステークホルダー

### 環境マネジメントの発展を 支えるリマテックの技術力

Managing Director, SCI Eco Services Co., Ltd. (SCleco)  
Vice Chairman of Renewable Energy Industry Club, Federation of Thai Industry  
Former Chairman of Environmental Management Industry Club, Federation of Thai Industry



Teerapon Tirawasin

リマテックグループが環境マネジメント事業において40年以上の長期間にわたり、成功を続けていることに喜びを申し上げます。リマテックグループが世界最高レベルの企業の一社であることを証明するいくつかの出来事があります。そのうちのひとつが2011年3月に発生した東日本大震災による200万トン以上の災害廃棄物処理に対する効率的な対応です。さらに、2013年の九州工場の火災事故の際は、事故発生要因や再発防止策を体系的な調査と分析により、実面的な対応をされました。その結果、一年後には自動設備を含む新

工場を完成させ、事業を再開しました。これは、地域からの信頼なくしては、通常では成し得ないことです。

タイ王国では、不法投棄撲滅時代の幕開けであり、政府は一般及び産業廃棄物について、不法投棄を厳重に監視するための新規制に署名しました。同時に、3Rのコンセプトを推進し、課題解決力の高い廃棄物処理として廃棄物のエネルギー化に対するインセンティブ制度を導入しました。国家の方針と同じく、2015年には、我々SCIエコサービス社の取締役会は、リマテックグループのタイ王国現地法人であるRKTとグリーン・コンサーベーション・ソリューション社 (GCS) の設立を承認しました。リマテックグループの技術力とSCIエコサービス社のタイ王国での経験を活かし、一般廃棄物のエネルギー化事業を実施します。

リマテックに対する我々の信頼は、社長である田中氏の長期間に渡る日本国内外での経験からも揺るぎないものです。我々は、彼の高い知見の結集が環境分野において過渡期を迎えるタイ王国に継続的に貢献頂けることを信じております。最後に、リマテックグループは、日本同様、タイ王国における環境マネジメントの発展に最も重要な役割を果たされることを確信しております。

## from 社員

### ASEANにおける、 環境保護のリーダーに



Chief Financial Officer  
Phimon Lertsabanant

弊社は、設立3年のまだまだ歴史の浅い会社ではございますが、近い将来、タイ王国だけでなく、ASEAN諸国において環境保護のリーダーとして、私たちにとってかけがえのない地球環境を守り、持続可能な社会の構築に貢献することを目標としています。

私は、この会社の財務・管理部門責任者として、ステークホルダーの皆様とも十分なコミュニケーションを継続し、各プロジェクトの事業価値や企業としての価値を高めるよう日々邁進してまいります。

弊社のような志の高い企業の一員となり、誇りを持って事業に携われることをうれしく思います。

# 株式会社レックス



●資源循環ソリューション



## お客様に寄り添い、信頼を軸にした イノベティブな資源循環サービスを創造

株式会社レックス(Re:CS)は、関西を拠点に再資源化事業を行ってきた3社の営業部門を独立・統合し、2016年3月1日に設立した「資源循環サポート会社」です。「お客様から信頼されるパートナーとして、持続可能な社会づくりへの貢献を」という想いを込め、コーポレートスローガン "Re-Creation for Sustainable Society (持続可能な社会に向けた再創造)" の頭文字

から社名を付けました。また、関西でトップクラスの実績をもつ廃棄物処理業7社が「レックスグループ」として協力体制を構築。排出事業者様にとってよりベストなソリューションを提供しています。持続可能な社会の実現に向けた要請に応え、資源循環業界にイノベーションを興し、より一層高度な資源循環サービスを提供できる「資源循環インフラ」の創造を目指します。

## TOPICS

### 設立記念パーティを開催

2016年4月4日、株式会社レックス設立記念パーティを大阪市内にて開催しました。設立趣意、役員就任挨拶をはじめ、株主および来賓の方からもご祝辞を頂きました。ご参加頂いた関係者の皆様、ご参会頂き、誠にありがとうございました。



### 提携企業との勉強会の実施

レックススタッフおよび提携企業のスタッフと勉強会を実施しております。営業マンとしてのスキル、またお客様に対しての更なるサービスの向上を目指すため、処理方法、処理技術知識、情報交換だけでなく、各社の施設見学会や、外部講師を招いて勉強会を実施しました。



### from ステークホルダー

#### 我が国の重要課題 「資源循環インフラ」を担う 企業へ

株式会社アソッカ  
代表取締役  
中村 信夫



国連の「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」、欧州委員会の「サーキュラー・エコノミー・パッケージ(Circular Economy Package)」など、世界経済社会は資源循環に向けて大きなパラダイムシフトが起きつつあります。しかしながら、我が国・日本はそれを支えなければならない資源循環インフラが脆弱であり、我が国の経済においても重要な課題になると考えていました。関西再資源ネットワーク、マルサン、リマテックホールディングスの3社の社長が、資源循環のインフラを作る為に、将来の統合を念頭に営業部門の統合を行うという話を聞いた時は、大いに驚きましたが、是非、頑張りたいと考え、マイナーではありますが、当社も出資をさせて頂きました。今や当たり前となった「宅配」というインフラを作り上げたヤマト運輸が、宅配事業を開始したのはたった40年前の1976年です。株式会社レックスは、必ず資源循環インフラを担う企業に成長してくれると、大いに期待しています。

### from 社員

#### お客様が困ったとき、 顔や名前を思い浮かべて 頂く存在に

ソリューション事業部  
小山 武史



平成28年4月から業務を開始し数ヶ月経過しました。当初は同じ屋根の下にいる別会社の営業という雰囲気が否めませんでした。現在は少しずつですが良い意味で仲間意識が出てきて冗談を言い合えるまでになりました。業務面でも3社営業が統合したことによってお客様から以前とは異なるご相談を頂くなど、今まで以上にお客様と密に寄り添う形で業務が出来るようになってきております。急ピッチでの新会社設立により、当初はどうかと不安もありましたが、現在では今後の当社の展開、成長を引っ張っていけるよう努力し、お客様から困った時に顔や名前を思い浮かべて頂けるよう努めてまいります。

### トップコミットメント

#### 同じ志を持つ仲間との連携で、 新たな時代に資源循環インフラを

代表取締役社長 塩見 頼彦

レックスの誕生は、各社トップの新たな時代への危機感から始まりました。廃棄物発生量の減少、低コスト競争の激化、大手企業の事業参入。廃棄物施設の拡大には多大な時間とリスクが伴います。これからの時代を生き残り、社会が求めるサービスに応えるためには、同じ志を持つ仲間との強固な連携が必要だと考え、強い信頼関係がある3社で経営統合を見据えた営業統合を行い、レックスを設立しました。提携企業4社との連携をはじめ、営業ラインナップの拡大を進め、徹底した顧客管理(CRM)を行い、お客様の目線で「ローコスト、高資源循環、リスクミニマム」を高次元に両立する、新たな資源循環サービスを提供できる資源循環インフラを創造します。



RF事業における環境パフォーマンスデータ

対象/リマテック株式会社  
リマテック九州株式会社  
RTT株式会社

INPUT

※省エネ法適用外

資源	
ガソリン(kℓ)	26.0
軽油(kℓ)	22.4
A重油(kℓ)	85.0
灯油(kℓ)	0
電力(kWh)	2,826,878
工業用水(m <sup>3</sup> )	12,673
リマテック	
ガソリン(kℓ)	14.3
軽油(kℓ)	9.5
A重油(kℓ)	0.0
灯油(kℓ)	0
電力(kWh)	1,105,575
工業用水(m <sup>3</sup> )	0.00
リマテック九州	
ガソリン(kℓ)	11.7
軽油(kℓ)	12.9
A重油(kℓ)	85.0
灯油(kℓ)	0
電力(kWh)	1,721,303
工業用水(m <sup>3</sup> )	12,673.00

RF production

再資源化物とCO<sub>2</sub>排出量の推移



OUTPUT

CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	1,959
再資源化物出荷量 (t)	97,400
RF出荷量 (t)	97,400
低級燃料出荷量 (t)	0
再生硝酸出荷量 (t)	0



産業廃棄物排出量 (t)	2,580
再生残渣量	2,506
空容器量	74
廃プラスチック類	70
木くず	4
紙くず	0
繊維くず	0



有価金属くず (t)	595
------------	-----

内訳	
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	636
再資源化物出荷量 (t)	52,925
RF出荷量	52,925
低級燃料出荷量	0
産業廃棄物排出量 (t)	2,168
再生残渣量	2,138
空容器量	30
廃プラスチック類	26
金属くず	0
木くず	4
紙くず	0
がれき類	0
繊維くず	0
ガラスくず	0
有価金属くず (t)	594.59



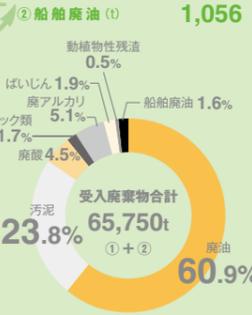
リマテック	
リサイクル率 (%)	81.8
リマテック九州	
リサイクル率 (%)	98.6

収集(運搬)業務	
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	1,004
RTT	
1,004	478
九州支社	
436	90
東北支社	
90	-

RF製造原料



① 産業廃棄物 (t)	64,694
廃油	40,041
汚泥	15,618
廃酸	2,975
廃アルカリ	3,325
ばいじん	1,236
廃プラスチック類	1,150
動植物性残渣	328
もえがら	21
金属くず	0



② 船舶廃油 (t)	1,056
③ 原材料 (t)	37,064
再生燃料	37,064

廃棄物とリサイクル率の推移



収集(運搬)業務における軽油使用量とCO<sub>2</sub>排出量の推移



収集(運搬)業務

軽油(kℓ)	387.5		
RTT			
387.5	184.2	168.7	34.6

ガソリン(kℓ)	1.0		
RTT			
1.0	0.7	0.0	0.3

主な資格取得情報

(2016年3月現在/社員+役員: 161名)

種類	種別	2015年取得者	取得者合計 ※役員含む
国資	2級ボイラー技師免許	0	5
国資	技術士(生物工学)	0	1
国資	技術士補(生物工学)	0	1
国資	技術士(衛生工学)	0	2
国資	技術士(総合技術監理)	0	1
国資	1級土木施工管理技士	0	2
国資	2級土木施工管理技士	0	2
国資	1級管工事施工管理技士	0	1
国資	1級機械保全技能士	0	1
国資	2級建築士	0	1
国資	エネルギー管理技士	0	2
国資	第一種電気工事士	0	1
国資	第二種電気工事士	1	3
国資	第一種衛生管理者	1	11
国資	公害防止管理者大気一種	1	3
国資	危険物取扱者 甲種	1	11
国資	危険物取扱者 乙種1類	2	12
国資	危険物取扱者 乙種2類	0	16
国資	危険物取扱者 乙種3類	1	14
国資	危険物取扱者 乙種4類	1	93
国資	危険物取扱者 乙種5類	2	12
国資	危険物取扱者 乙種6類	8	24
国資	危険物取扱者 丙種	0	33
国資	一般毒物劇物取扱者免許	0	7
技	有機溶剤作業主任者	3	50
技	特定化学物質等作業主任者	0	17
技	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	2	59

種類	種別	2015年取得者	取得者合計 ※役員含む
技	車両系建設機械(整地等)運転	1	11
技	車両系建設機械(解体用)運転	1	6
技	高圧ガス移動監視者講習 (I類 可燃性ガス・酸素)	0	1
技	高圧ガス移動監視者講習 (III類 LPガス)	0	1
技	ボイラー取扱者	0	2
技	普通第一種圧力容器取扱作業主任者	0	2
技	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	4	25
技	第二種酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	0	7
技	フォークリフト運転技能	4	80
技	高所作業者運転技能講習	1	7
技	はい作業主任者	3	12
技	ガス溶接技能講習	1	26
技	玉掛け技能講習	1	52
特	酸素欠乏等危険作業特別講習	0	2
特	5t未満クレーン運転特別教育	0	22
特	ウインチの運転業務特別教育	0	9
特	小型移動式クレーン運転	0	29
他	普通救命講習	0	26
他	上級救命講習	0	2
他	交通事故救命救急法教育講習	0	2
他	職長教育	0	21
他	職長・安全衛生責任者教育	0	17
他	安全管理者選任時研修	1	3
他	ISO14001内部監査者養成研修	1	4
他	廃棄物管理士	6	15
他	産業廃棄物中間処理施設技術管理士	1	7

NPO法人環境文明21共同代表  
藤村 コノエ



私が第三者意見を書くようになって4冊目になります。その間、リマテックも持株会社化、海外展開など様々な変化を遂げてきましたが、その背景には、厳しさを増すこの業界の今後と、地球環境の悪化や混迷を極める世界情勢の中で、価値ある企業として如何に存続し続けるか、という田中社長の葛藤と挑戦があったように思います。そして、今回のレポートではそれが少しずつですが、形になってきていることが伺えます。

まずトップメッセージでは、目指す姿を「オープンイノベーションで「資源循環インフラ」を構築する」という言葉で示しています。またその一環として、安全をより確かなものにする「リメンバーデー」を設定し新たなマネジメントシステムを構築したことや、さらなる進化と共有価値の創造をめざして営業部門を他社の同部門と統合し「株式会社レックス」を設立したことなどは、産業廃棄物業界の新たな方向性を示す取り組みとして注目されます。

また持株会社化して3年目、グループ各社の事業紹介も昨年と比べて随分わかりやすくなり、トップ、社員のコメントからは仕事にける思いや責任感が伝わり、持株会社化の成果が少しずつ出てきているように感じます。そして、国内外のステークホルダーのコメントからは両者の信頼関係が構築され、「地域社会と未来をつなぐ」リマテックグループの存在価値が浸透しつつあることが伝わってきます。

その一方で、環境パフォーマンスとして全社的なデー

タがまだまだ未整備なところは残念です。特に、昨年も指摘しましたが、パリ協定が発効し今後大幅なCO<sub>2</sub>削減が求められることになれば、各社、グループ全体のどこからどの程度のCO<sub>2</sub>が排出されているか現状を的確に把握し対策をとることが必須になります。また再生可能エネルギー事業や各社の省エネ活動等により社会全体のCO<sub>2</sub>削減に貢献しているにも関わらず、その全体像が見えません。自社からの排出量と、事業活動での削減量の全体が見えてくると、環境配慮企業としての社会的信頼はより高まるものと思います。

また環境管理活動で目的・目標に達しなかった面が見られ、特にリサイクル率が著しく低下した点はとても残念です。さらに、安全衛生活動でも事故報告がある点は残念です。これらについては、新マネジメントシステムがうまく機能するようになり、「リメンバーデー」の誓いが浸透することで解決していくと期待していますが、基本は社員一人ひとりの自覚と行動であることも忘れてほしいと思います。

パリ協定の発効により、世界は脱炭素社会に向けて舵を切りました。その大きな文明の転換期の中で、リマテックの今後平坦なものではないでしょう。

それでも、「社会の資源循環インフラを担う企業グループへ」というビジョン達成に向けて、グループ会社ならではの「特性・自立」と「連携」を活かし、全社一丸となって、挑戦し続けてほしいと期待しています。

第三者意見を受けて

リマテックホールディングス株式会社 取締役 伊藤 大輔



グループの持株会社化実施から3年目、本レポートを通じて各社の決意と成長を評価頂きましたこと、大変励みになります。また、株式会社レックスでの取り組みについては、「業界の新たな方向性を示す取り組み」と評価頂きましたこと、「柔軟かつ機動的に挑戦し続ける」といった企業風土が伝承されていることを改めて確信致しました。

中長期経営ビジョンとして「社会の資源循環インフラを担う企業グループ」を掲げる当社にとって、当社グループの今後の成長、事業領域の拡大のためには、オープンイノベーションの考えを取り入れたビジネスパートナーとの協業が不可欠になります。地域や専門分野ごとに異なる課題を把握し、その解決方法に対して、共有価値の創造を目指すために、国内外のステークホルダーとのコミュニケーションを継続し、さらなる信頼関係の構築を進めてまいります。

開示データの拡充に関しましては、課題として認識し、

2015年度からは、実績管理を実施しております。しかしながら、電力使用量について、ビルや施設の所有者様が一括管理されており、電力会社からの電気使用量明細書が開示されておらず、実際の使用量が把握できない場合があるなど、現況での開示はステークホルダーの皆様にご迷惑を与えかねないとの判断から記載を見送りました。リサイクル率の低下や事故報告については、ご指摘の通りです。これまでの経験や自信が過信に繋がっていないか、改めて一人ひとりが真摯に受け止め、初心にかえって取り組んでまいります。

一人でも多くのステークホルダーの皆様へ、当社グループの経営理念や活動を幅広く知って頂き、ご理解を頂くために、来年度以降も、読み手の立場に立ったレポート作成に努めてまいります。

**REMATEC HOLDINGS** リマテックホールディングス株式会社

本社 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1  
tel.072-438-4146 fax.072-422-3809

<http://www.rematec.co.jp>

**REMATEC R&D** リマテックR&D株式会社

本社 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4  
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526

<http://www.rematec.co.jp/rd/>

**REMATEC** リマテック株式会社

本社/大阪工場 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1  
tel.072-438-6434(代表) fax.072-422-3617

堺SC工場 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4  
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526

藤原事業所 〒511-0515 三重県いなべ市藤原町大字東禅寺1361-1  
tel.0594-46-4544 fax.0594-46-4544

南港事業所 〒559-0032 大阪府大阪市住之江区南港南7丁目  
関西電力株式会社 南港発電所内  
tel.06-6613-7761 fax.06-6613-7761

メタン発酵施設 〒596-0013 大阪府岸和田市臨海町16-1  
岸和田フィッシュミール株式会社構内  
tel.072-432-8004 fax.072-432-8004

<http://www.rematec.co.jp/rematec/>

**RTT** RTT株式会社

本社 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4  
tel.072-280-0672 fax.072-280-0673

大阪支社 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1  
tel.072-433-7880 fax.072-433-7881

九州支社 〒875-0201 大分県臼杵市野津町大字野津市648-1  
tel.0974-32-7820 fax.0974-32-7821

藤原事業所 〒511-0515 三重県いなべ市藤原町大字東禅寺1361-1  
tel.0594-46-4544 fax.0594-46-4544

<http://www.rtt-rematec.co.jp>

**REMATEC & KSN THAILAND**

本社 No.589/146, Room 0F2602, 26th Floor, Central City Tower, Bangna-Trad Road, Bangkok 10260, Thailand  
tel: +66-(0)2-745-6793 fax: +66-(0)2-745-6794

**REMATEC KYUSHU** リマテック九州株式会社

本社/九州工場 〒875-0211 大分県臼杵市野津町大字都原906  
tel.0974-32-7721 fax.0974-32-7731

津久見事業所 〒879-2474 大分県津久見市合ノ元町2-1  
太平洋セメント株式会社 大分工場津久見プラント内  
tel.0972-82-9055 fax.0972-82-7025

北九州事業所 〒800-0025 福岡県北九州市門司区柳町1-9-23  
和光ビル2F  
tel.093-371-3340 fax.093-371-3074

<http://rematec-kyushu.com/>

**Re:CS** 株式会社レックス

本社 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1-3-9  
プレミアム長堀ビル6階  
tel.06-6210-2327 fax.06-6210-2328

<http://re-cs.co.jp>

**REMATEC TOHOKU** リマテック東北株式会社

本社 〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字亀井田2-3  
tel.0192-47-3526 fax.0192-47-3527

<http://www.rematec.co.jp/tohoku/>